

令和2年度

岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



【目次】

I	実施概要	1
1	調査目的	
2	調査対象	
3	調査期日	
4	調査内容	
5	調査方法	
6	回答数及び回収率	
II	研修・支援・研究業務の推進に関する調査（小中高特）	3
1	回答者に関わる調査	3
2	研修業務推進に関わる調査	4
3	支援業務推進に関わる調査	2 1
4	研究業務推進に関わる調査	2 3
5	研修・支援・研究業務への意見・要望	3 0
III	研修・支援・研究業務の推進に関する調査（幼稚園等）	3 2
1	回答者に関わる調査	3 2
2	研修業務推進に関わる調査	3 2
3	支援業務推進に関わる調査	3 8
4	研究業務推進に関わる調査	3 9
5	研修・支援・研究業務への意見・要望	4 4
IV	分析・考察	
1	小・中・高・特別支援学校についての分析・考察	4 5
2	幼稚園等についての分析・考察	5 0
3	研修・支援・研究業務への意見・要望に対する当センターからの回答	5 2

I 実施概要

1 調査の目的

教育現場のニーズを把握し、令和3年度以降の総合教育センターにおける研修・支援・研究業務の推進に役立てる。

2 調査の対象

- (1) 市町村立幼稚園・保育園・幼稚園型認定こども園 (52園)
- (2) 私立幼稚園・保育園(私立幼稚園・認定こども園連合会加盟園以外) (36園)
- (3) 私立幼稚園・認定こども園連合会加盟園 (74園)
- (4) 市町村立小・中・義務教育学校 (小：301校、中：149校[※]、義務教育学校1校[※])
- (5) 県立中学校 (1校)
- (6) 県立高等学校 (75校[※])
- (7) 市立高等学校 (1校)
- (8) 県立特別支援学校 (16校[※])
- (9) 国立幼・小・中・特別支援学校 (4校) 計 710 校(園)

※分校、課程別、校舎別も1校として計上(休校中を除く)

3 調査時期

令和2年6月

4 調査の内容

- (1) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査(対象：小・中・義務教育学校・高・特支)
 - ①研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について(質問4～質問6)
 - (イ) 研修内容のニーズについて(質問7～質問10)
 - ②支援業務推進に関わる調査
 - (ア) 各研修・相談のニーズについて(質問11～質問12)
 - ③研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について(質問13～17)
 - (イ) 研究成果物の入手方法について(質問18)
 - ④スタートカリキュラムについて(質問19)
 - ⑤総合教育センターの研究内容のニーズについて(質問20)
 - ⑥総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望(質問21)
- (2) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査(対象：幼稚園、保育園、認定こども園)
 - ①研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について(質問3～質問5)
 - (イ) 研修内容のニーズについて(質問6～質問7)
 - ②支援業務推進に関わる調査
 - (ア) 各研修・相談のニーズについて(質問8～質問9)

③研究業務推進に関わる調査

(ア) 研究成果物の活用について (質問10)

(イ) 研究成果物の入手方法について (質問11)

④教育体制、教育課程について (質問12～質問17)

⑤スタートカリキュラムについて (質問18～19)

⑥総合教育センターの研究内容のニーズについて (質問20)

⑦総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (質問21)

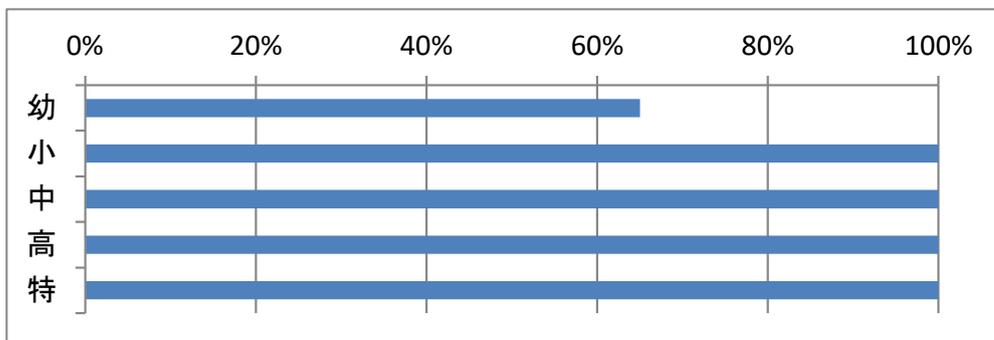
5 調査方法

調査は、岩手教育情報交流ネットを利用して行った。

6 回答数及び回収率 (県内国公立)

校種	対象数	回答数	回収率	参考 (H30 回収率)
幼稚園等	163	106	65.0%	24.3%
小学校・義務教育学校前期	303	303	100.0%	99.1%
中学校・義務教育学校後期	152	152	100.0%	96.3%
高等学校	76	76	100.0%	86.3%
特別支援学校	17	17	100.0%	94.1%

※Ⅱ以下の割合については、この表中の回答数を基に算出。



※調査対象について

- ・幼稚園等については、前回 (H30 年度) 調査では、市町村立幼稚園等に加え、岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会加盟園と岩手県社会福祉協議会会員施設・全国保育士会会員所属施設 452 施設を調査対象としていたが、回収率が低かったため、前掲 2 (1)～(3) を対象とした。
- ・また、高等学校についても、前回調査では私立高等学校も対象としたが、回答が得られなかったため、県立学校のみとした。

Ⅱ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（小中高特）

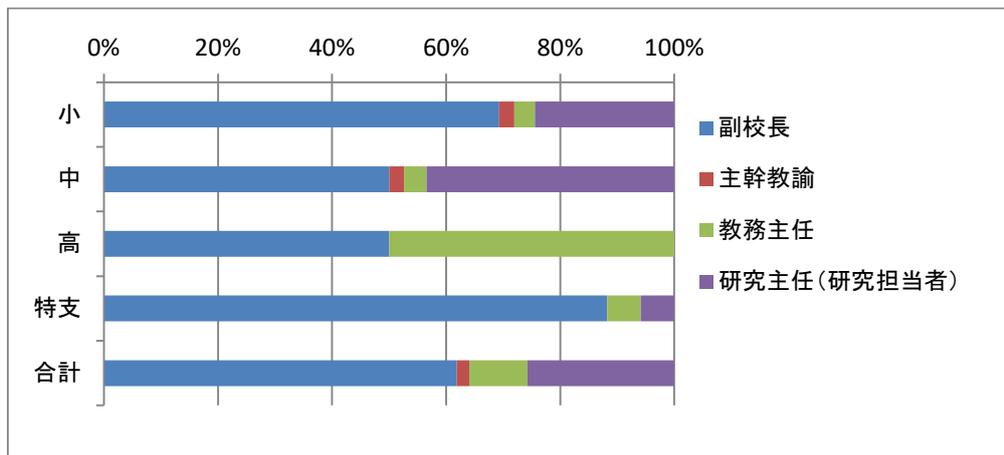
1 回答者に関する調査（質問1・質問3）

【質問1】あなたの学校の校種を回答してください。

【質問3】回答者の職名（校務分掌）を回答してください。

	小	中	高	特支	合計
副校長	210	76	38	15	339
主幹教諭	8	4	0	0	12
教務主任	11	6	38	1	56
研究主任(研究担当者)	74	66	0	1	141

	小	中	高	特支	合計	H30	H28
副校長	69.3%	50.0%	50.0%	88.2%	61.9%	70.1%	59.9%
主幹教諭	2.6%	2.6%	0.0%	0.0%	2.2%	2.2%	1.9%
教務主任	3.6%	3.9%	50.0%	5.9%	10.2%	8.8%	8.7%
研究主任(研究担当者)	24.4%	43.4%	0.0%	5.9%	25.7%	18.9%	29.4%



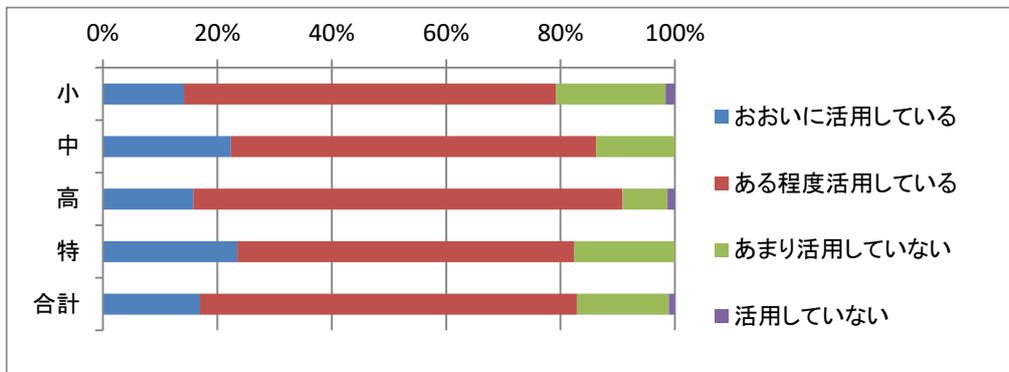
2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修活用状況に関わる調査（質問4）

【質問4】回答者からみて、貴校職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	43	34	12	4	93
ある程度活用している	197	97	57	10	361
あまり活用していない	58	21	6	3	88
活用していない	5	0	1	0	6

	小	中	高	特支	合計	H30	H28
おおいに活用している	14.2%	22.4%	15.8%	23.5%	17.0%	15.1%	13.8%
ある程度活用している	65.0%	63.8%	75.0%	58.8%	65.9%	67.6%	66.4%
あまり活用していない	19.1%	13.8%	7.9%	17.6%	16.1%	16.0%	18.6%
活用していない	1.7%	0.0%	1.3%	0.0%	1.1%	1.3%	1.2%



<参考H30>

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	14.7%	18.5%	8.7%	18.8%	15.1%
ある程度活用している	65.2%	68.2%	75.4%	75.0%	67.6%
あまり活用していない	18.5%	12.7%	14.5%	6.3%	16.0%
活用していない	1.6%	0.6%	1.4%	0.0%	1.3%

<参考H28>

	小	中	高	特支	合計
おおいに活用している	15.5%	7.0%	22.2%	6.7%	13.8%
ある程度活用している	63.2%	72.8%	63.9%	80.0%	66.4%
あまり活用していない	19.8%	19.0%	13.3%	13.3%	18.6%
活用していない	1.5%	1.3%	0.0%	0.0%	1.2%

(2) 活用している研修（質問5） [自由記述]

【質問5】「質問4」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。具体的な研修の講座名と内容を箇条書きで記入してください。

ア 小学校

研修内容	回答数	割合	H30	H28
特別支援教育	53	17.5%	19.8%	18.3%
生徒指導	52	17.1%	16.9%	4.9%
基本研修	44	14.5%	16.6%	14.3%
授業力向上研修	43	14.2%	12.8%	18.3%
教育研究発表会	38	12.5%	8.0%	12.2%
プログラミング	27	8.9%	—	—
情報教育	17	5.6%	3.8%	5.2%
国語	12	4.0%	8.9%	9.8%
道徳	10	3.3%	8.6%	—
学級経営	10	3.3%	4.5%	—

※今回調査で回答数の多いもの、上位10項目

イ 中学校

研修内容	回答数	割合	H30	H28
基本研修	28	18.4%	19.7%	11.4%
教育研究発表会	21	13.8%	8.3%	8.9%
授業力向上研修	19	12.5%	11.5%	11.4%
生徒指導	16	10.5%	12.7%	—
特別支援教育	15	9.8%	15.3%	15.8%
教育相談	11	7.2%	5.1%	5.7%
新任研修	9	5.9%	20.4%	—
道徳	8	5.3%	8.3%	3.8%
情報教育	7	4.6%	—	—
免外	5	3.3%	7.0%	9.5%

※今回調査で回答数の多いもの、上位10項目

ウ 高等学校

研修内容	回答数	割合	H30	H28
基本研修	26	34.2%	53.6%	34.7%
新任研修	16	21.1%	23.2%	—
特別支援教育	14	18.4%	15.9%	22.2%
授業力向上研修	13	17.1%	24.6%	13.9%
教育相談	12	15.8%	13.0%	22.2%
情報教育	9	11.8%	—	11.1%
生徒指導	7	9.2%	14.5%	9.7%
思考力・判断力・表現力	5	6.6%	—	—
教育研究発表会	4	5.3%	—	—
算数・数学	3	3.9%	5.8%	5.6%

※今回調査で回答数の多いもの、上位10項目

エ 特別支援学校

研修内容	回答数	割合	H30	H28
特別支援教育	5	29.4%	47.1%	—
教育相談	5	29.4%	—	—
基本研修	3	17.6%	23.5%	—
情報教育	2	11.8%	—	46.7%
新任研修	2	11.8%	17.6%	—

※今回調査で回答数の多いもの、上位10項目

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問6） [自由記述]

【質問6】「質問4」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

回答内容	回答数	割合	H30	H28
個人研修にとどまっている／ 学校全体の活用になっていない	25	4.6%	1.6%	1.7%
市町村等の研修が充実している	20	3.6%	—	—
業務の多忙／他の出張が多い	15	2.7%	2.5%	8.4%
センターの研修に参加していないため	15	2.7%	1.4%	—
希望研修への参加を希望する教員が少ない 学校の実態に合う研修がない	12	2.2%	1.6%	3.5%

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目

(4) センターの研修として取り上げてほしい教科・科目に関する調査 (質問7)

【質問7】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修として取り上げてほしい教科・科目について以下の項目から選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
国語	95	31.4%	43	28.3%	38	50.0%	2	11.8%	178	32.5%
社会 (地理・歴史、公民含む)	30	9.9%	38	25.0%	24	31.6%	1	5.9%	93	17.0%
算数・数学	164	54.1%	54	35.5%	29	38.2%	2	11.8%	249	45.4%
理科	43	14.2%	41	27.0%	23	30.3%	2	11.8%	109	19.9%
生活	18	5.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	19	3.5%
音楽	20	6.6%	19	12.5%	3	3.9%	4	23.5%	46	8.4%
図画工作／美術	20	6.6%	18	11.8%	2	2.6%	4	23.5%	44	8.0%
書道	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	1	5.9%	3	0.5%
技術	0	0.0%	21	13.8%	0	0.0%	1	5.9%	22	4.0%
家庭	11	3.6%	27	17.8%	7	9.2%	2	11.8%	47	8.6%
体育／保健体育	32	10.6%	22	14.5%	7	9.2%	3	17.6%	64	11.7%
外国語	5	1.6%	45	29.6%	33	43.4%	1	5.9%	84	15.3%
工業	0	0.0%	0	0.0%	7	9.2%	0	0.0%	7	1.3%
農業	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	0	0.0%	2	0.4%
商業	0	0.0%	0	0.0%	5	6.6%	0	0.0%	5	0.9%
水産	0	0.0%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	1	0.2%
情報	0	0.0%	0	0.0%	21	27.6%	5	29.4%	26	4.7%
福祉	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	0	0.0%	2	0.4%
特別の教科 道徳	124	41.9%	103	67.8%	2	2.6%	8	47.1%	240	43.8%
小学校外国語	152	50.2%	2	1.3%	0	0.0%	2	11.8%	156	28.5%
その他	19	6.3%	23	15.1%	14	18.4%	6	35.3%	62	11.3%

※上位5項目を色づけ (その他を除く)

(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容（質問8） [自由記述]

【質問8】「質問7」で選択した教科・科目の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
国語	95	31.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・教材分析、単元づくり、指導法の工夫、資質・能力を育む授業（授業の実際）、評価 ・「主体的・対話的で深い学び」の具体、学習計画のたて方 ・新学習指導要領のねらいに沿った授業の展開の仕方
社会	30	9.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導方法の工夫と改善について ・地域教材の開発や活用について
算数・数学	164	54.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導方法の工夫と改善について ・数学的な見方・考え方を働かせた授業の在り方 ・教科書を活用してのプログラミング学習について ・思考力・判断力・表現力を身に付ける指導実践の在り方
理科	43	14.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた指導方法の工夫と改善について ・プログラミングに関する教材の扱いや授業での活用方法 ・実験・実技を伴う授業づくりの研修会
生活	18	5.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・主体的に学習に取り組む態度の評価方法 ・「主体的・対話的で深い学び」の在り方
音楽	20	6.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・具体的な指導方法について ・実験・実技を伴う授業づくりの研修会
図画工作／美術	20	6.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・具体的な指導方法について ・実験・実技を伴う授業づくりの研修会
家庭	11	3.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・具体的な指導方法について
体育／保健体育	32	10.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・主体的・対話的で深い学びについて ・実技指導

外国語	5	1.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の授業の進め方のこつや評価の仕方等 ・小学校外国語を中学校英語にスムーズにつなげるための小学校の学習仕方について
特別の教科 道徳	124	41.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・評価に迫るための発問の在り方 ・指導方法と評価のあり方 ・考え、議論する授業の展開
小学校外国語	152	50.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の育成に向けた指導と評価の在り方 ・対話、コミュニケーション活動を充実させるための手立て（単元デザインについて） ・パフォーマンス評価の在り方 ・授業づくりの実際
その他	19	6.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育に関する校内での研修の進め方 ・リモート授業の組み立て方と進め方 ・ICT活用

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
国語	43	28.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・主体的に学習に取り組む生徒の育成に対する実践 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・読解力向上のための取組
社会	38	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・県内地域の教材を活かした実践例 ・新学習指導要領に対応した教材作成について
算数・数学	54	35.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・数学の基本（算数）を定着させるための有効的な指導法について ・各種調査結果を踏まえた事後指導の具体的な在り方
理科	41	27.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・各地区の特徴をいかすことのできるフィールドワークの紹介 ・地質や動植物の地域に根ざした教材
音楽	19	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について
図画工作／美術	18	11.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について

技術	21	13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・プログラミングについて
家庭	27	17.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について
体育／保健体育	22	14.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・水泳や器械運動等「できる・できない」がはっきりと見えてしまう単元へのアプローチの仕方
外国語	45	29.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の理論と授業の実際 ・新学習指導要領実施に伴う評価方法について ・小中の接続、評価について ・教科横断的な外国語の授業づくり
特別の教科 道徳	103	67.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・学びあい、深め合える話し合い学習について ・「いわて道徳教育ガイドブック」に沿った評価の仕方について ・道徳の評価方法と所見の表現について（保護者への通知の仕方についてなど具体的な点）
小学校外国語	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連結部分の指導の具体的在り方や留意点
その他	23	15.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程全般デジタル教科書の活用 ・オンライン授業で使えるツール（zoom、teams など）の活用について ・新学習指導要領における授業観の見直しやファシリテーターとしての発問の在り方等 ・オンライン授業の進め方（環境整備・教材作成・校内研修等）

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
国語	38	50.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善 ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・探究的な授業の実践例
社会	24	31.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善 ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・地理総合、歴史総合
算数・数学	29	38.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善 ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・基礎基本の定着
理科	23	30.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善 ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・授業で使える実験や教材の作成、野外での観察
音楽	3	3.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について
図画工作／美術	2	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・教科横断的な取組事例
書道	2	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・教科横断的な取組事例
家庭	7	9.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・教科横断的な取組事例 ・実技講習
体育／保健体育	7	9.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・運動が苦手な生徒に対する指導
外国語	33	43.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善 ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について
工業	7	9.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の専門毎に、実習として取り扱っているテーマや最新の技術 ・工業高校でほとんど履修していない科目の指導方法
農業	2	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・農業のIoT化について
商業	5	6.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・商業に関する基礎的な知識、入門編
水産	1	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の水産業界の実状、他県の水産教育の先進事例
情報	21	27.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した指導方法、評価方法について ・プログラミング教育について ・最新の情報
福祉	2	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の向上
特別の教科 道徳	2	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な指導方法、実践例
その他	14	18.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業等の研修 ・ICTの活用について ・総合的な探究の時間

エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
国語	2	11.8%	・知的障がい教育における教科別の指導の進め方
社会	1	5.9%	・多様な教育課程のある特別支援学校に対応した内容
算数・数学	2	11.8%	・知的障がい教育における教科別の指導の進め方
理科	2	11.8%	・発展的な実験
生活	1	5.9%	・多様な教育課程のある特別支援学校に対応した内容
音楽	4	23.5%	・新しい内容 ・支援を必要とする児童生徒への指導に当たっての工夫、授業づくり
図画工作／美術	4	23.5%	・支援を必要とする児童生徒への指導に当たっての工夫、授業づくり
書道	1	5.9%	・多様な教育課程のある特別支援学校に対応した内容
技術	1	5.9%	・多様な教育課程のある特別支援学校に対応した内容
家庭	2	11.8%	・支援を必要とする児童生徒への指導に当たっての工夫、授業づくり
体育／保健体育	3	17.6%	・知的障がい教育における体づくりの運動の指導・支援
外国語	1	5.9%	・「主体的・対話的で深い学び」の実践について
情報	5	29.4%	・情報（特別支援）リモート授業の方法
特別の教科 道徳	8	47.1%	・目標設定と評価について ・指導案の工夫と評価方法 ・知的障がい対象におけるねらいの設定と評価の手立て
小学校外国語	2	11.8%	・聴覚障がいを持つ児童への外国語学習の工夫
その他	6	35.3%	・理療に関する科目 ・知的障害学校における各教科の指導について ・発達障害についての専門的な知見

(6) センターの研修として取り上げて欲しい領域等に関わる調査 (質問9)

【質問9】貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしい領域等について以下の項目から選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
道徳教育	30	9.9%	38	25.0%	4	5.3%	3	17.6%	75	13.7%
特別活動	17	5.6%	13	8.6%	1	1.3%	0	0.0%	31	5.1%
総合的な学習(探究)の時間	20	6.6%	20	13.2%	32	42.1%	3	17.6%	75	13.7%
小学校外国語活動	30	9.9%	1	0.7%	1	1.3%	1	5.9%	33	6.0%
キャリア教育	43	14.2%	33	21.7%	6	7.9%	1	5.9%	83	15.1%
特別支援教育	93	30.7%	57	37.5%	22	28.9%	7	41.2%	179	32.7%
自立活動	18	5.9%	6	3.9%	3	3.9%	9	52.9%	36	6.6%
国際理解教育	4	1.3%	3	2.0%	2	2.6%	0	0.0%	9	1.6%
環境教育	2	0.7%	5	3.3%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.3%
ボランティア教育	3	1.0%	5	3.3%	1	1.3%	0	0.0%	9	1.6%
情報教育	27	8.9%	21	13.8%	7	9.2%	3	17.6%	58	10.6%
復興教育	13	4.3%	16	10.5%	3	3.9%	1	5.9%	33	6.0%
読書指導	14	4.6%	5	3.3%	3	3.9%	0	0.0%	22	4.0%
健康教育	5	1.7%	5	3.3%	3	3.9%	0	0.0%	13	2.4%
学校安全(生活安全)	12	4.0%	8	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	20	3.6%
学校安全(交通安全)	2	0.7%	4	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	6	1.1%
学校安全(災害安全)	17	5.6%	10	6.6%	2	2.6%	0	0.0%	29	5.3%
伝統文化教育	1	0.3%	3	2.0%	1	1.3%	0	0.0%	5	0.9%
消費者教育	1	0.3%	1	0.7%	1	1.3%	0	0.0%	3	0.5%
小規模・複式指導	55	18.2%	6	3.9%	1	1.3%	0	0.0%	62	11.3%
学校経営	2	0.7%	4	2.6%	1	1.3%	0	0.0%	7	1.3%
学級・学年経営	22	7.3%	14	9.2%	2	2.6%	0	0.0%	38	6.9%
生徒指導	24	7.9%	19	12.5%	7	9.2%	0	0.0%	50	9.1%
教育相談	32	10.6%	27	17.8%	18	23.7%	0	0.0%	77	14.1%
教育法規	1	0.3%	2	1.3%	3	3.9%	0	0.0%	6	1.1%
校内研修	4	1.3%	12	7.9%	0	0.0%	0	0.0%	16	2.9%
校内研究	8	2.6%	16	10.5%	0	0.0%	0	0.0%	24	4.4%
カリキュラム・マネジメント	38	12.5%	30	19.7%	7	9.2%	3	17.6%	78	14.2%
主権者教育	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	0	0.0%	2	0.4%
プログラミング教育	144	47.5%	7	4.6%	7	9.2%	3	17.6%	161	29.4%
その他	9	3.0%	8	5.3%	11	14.5%	3	17.6%	31	5.7%

※上位5項目を色づけ(その他を除く)

(7) その他の項目に関わる調査（質問10） [自由記述]

【質問10】「質問9」で選択した領域の研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。「その他」を選択している場合には教科・科目の名称もお書きください。

ア 小学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	30	9.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法と評価のあり方 ・実践のポイントや具体的な実践事例 ・地域素材の活用 ・一人一人が考える道徳授業について
特別活動	17	5.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営に生かすためのよりよい学級活動について ・具体的な指導の事例について ・学級活動（1）（2）（3） ・児童会活動
総合的な学習の時間	20	6.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な指導内容事例等について ・総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの在り方について
小学校外国語活動	30	9.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・指導方法と評価のあり方 ・実践のポイントや具体的な実践事例 ・外国語との接続、系統的な指導
キャリア教育	43	14.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用した教育活動 ・キャリア教育の視点に立った教科学習の推進 ・小・中・高の連携による一貫性のあるキャリア教育の構築
特別支援教育	93	30.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の特性に応じた支援の在り方 ・自閉症スペクトラムの児童（知的障がいのない）への支援の方法 ・通常学級における特別支援教育 ・学校・家庭・医療との連携について ・ユニバーサルデザインに基づいた教科授業のあり方 ・特別支援学級の異年齢集団における生活単元の指導の在り方 ・小規模・複式指導における特別支援教育の在り方・工夫について ・発達検査の学校現場での活用方策について
自立活動	18	5.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握から具体的な指導するまでの過程 ・認知機能を高めるための指導法 ・児童の障害とその子に合った学習内容、学習計画、時間など
国際理解教育	4	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な内容について
環境教育	2	0.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調査にかかわる支援
情報教育	27	8.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた情報モラル教育について ・SNSの基本常識

復興教育	13	4.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭地域と連携した復興教育の推進 ・キャリア教育との関わり
読書指導	14	4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・読書量を増やすための働きかけ等、様々な実践の紹介や読書指導の仕方 ・家庭地域と連携した読書の環境
健康教育	5	1.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な肥満教育
学校安全（生活安全）	12	4.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・事件・事故災害時の危機管理と対応について ・緊急時の校内体制の在り方と校内研修の方法
学校安全（交通安全）	2	0.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・事故災害時の危機管理と対応について
学校安全（災害安全）	17	5.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の危機管理と対応について ・台風、集中豪雨などの災害に対する児童の判断力、実践力の育成 ・地域と連携した防災教育の進め方
伝統文化教育	1	0.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での推進
消費者教育	1	0.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科・家庭科での有効な指導の在り方等
小規模・複式指導	55	18.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上につながる効果的な指導の在り方について ・小規模・複式学級における学級づくり ・各教科の年間指導計画の作成の仕方 ・複式における算数科の効果的な授業について
学校経営	2	0.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を中心に据えた学校経営と授業づくり
学級・学年経営	22	7.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高めるための経営について ・授業に生かす学級経営 ・実践交流から学ぶ指導の在り方について ・生徒指導の3機能をはたかせ、自己肯定感の向上につながる具体的な取組について
生徒指導	24	7.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに協力し合い、よりよい人間関係を主体的に形成しようとする人間関係づくり ・いじめ問題への理解と対応 ・自己肯定感を高めるための働きかけ ・児童虐待について
教育相談	32	10.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向のある児童への対応 ・いじめ予防のための積極的教育相談のあり方 ・保護者へのアプローチの仕方、関係機関との連携について
教育法規	1	0.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に基づく諸問題への対応について
校内研修	4	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・初主任への校内研修の推進の仕方 ・質を高める（若手教員を育成する）校内研修の進め方
校内研究	8	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・初主任への校内研修の推進の仕方
カリキュラム・マネジメント	38	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等横断的な視点に立った教育課程の編成 ・具体的事例と実践方法について ・学校課題の改善に向けた具体的な手順の在り方 ・各教科の指導計画を基にした学びプランの作成について

プログラミング教育	144	47.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な指導のあり方やソフトなどの活用方法 ・指導と評価の一体化について ・プログラミング教育と教科指導の在り方について ・論理的思考力を身に付けるための授業のつくり方 ・指導環境が未整備（通信環境・機材）の場合の効果的な指導の進め方
その他	9	3.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業（ICT活用） ・小中連携 ・休校への対応 ・NIE実践

イ 中学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	38	25.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変容を導く授業の構築と評価の在り方 ・道徳教材と学習シート等 ・主体的な学びとなる道徳指導の在り方
特別活動	13	8.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力につながるボランティア教育のあり方 ・学級活動の充実
総合的な学習の時間	20	13.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に様々な課題解決の力を身に付けさせるための教師の指導の在り方 ・総合的な学習の時間とキャリア教育の在り方（生徒も教員も負担過多とならないような活動の在り方、評価のしかた）
小学校外国語活動	1	0.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・中学英語教師による指導の工夫について
キャリア教育	33	21.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育における体験的な学習の仕方の企画について ・カリキュラム・マネジメントの考え方を取り入れたキャリア教育推進に関する年間指導計画づくり ・キャリアパスポート作成にかかわる進め方の具体例
特別支援教育	57	37.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する支援が必要な生徒への対応の在り方 ・通級による指導について ・合理的配慮について ・他機関との連携について ・発達障害をもつ生徒及び保護者の支援体制の在り方について ・免許外教諭が担任をした場合の基本的対応の仕方 ・特別支援教育における進路指導について ・ユニバーサルデザインの視点を生かした指導の在り方 ・障がい種ごとの特性に応じた指導について
自立活動	6	3.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な授業づくり全般について ・実践例の紹介
国際理解教育	3	2.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な在り方
環境教育	5	3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全、調査活動の取り組み方やまとめ方に関すること

ボランティア教育	5	3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力につながるボランティア教育のあり方 ・地域との関わりをどのように深めるか
情報教育	21	13.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラル教育、特にゲーム依存症をふせぐ生活指導（情報教育） ・スマートフォンの利用 ・情報モラル指導の方法と年間指導計画
復興教育	16	10.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の記憶がない（当時は幼少であった）世代への復興教育のアプローチの方法 ・今後の復興教育（系統的な復興教育の進め方）
読書指導	5	3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・文学作品にどう触れていくか ・読書習慣の確立と読書活動を盛り上げるための効果的な指導の手立て
健康教育	5	3.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症への正しい理解 ・コロナ感染症拡大予防を徹底した授業や給食、清掃、行事の持ち方
学校安全（生活安全）	8	5.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル作成と活用の実際について
学校安全（交通安全）	4	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止と危機管理
学校安全（災害安全）	10	6.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアル作成と活用の実際について ・防災教育における実践と指導方法
伝統文化教育	3	2.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解交流活動に役立つ「伝統文化教育」の演習
小規模・複式指導	6	3.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模の学校での有効な授業の進め方（多様な考えの広げ方等） ・対話的な学習過程のあり方や深めるための工夫
学校経営	4	2.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応など社会状況に応じた経営の視点
学級・学年経営	14	9.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のQ U分析を生かしたショートホームルームの運営の在り方 ・魅力ある学級（学年）通信 ・集団づくりとリーダー指導
生徒指導	19	12.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の機能を活かした授業づくりについて ・コロナ対応など社会状況に応じた指導の視点 ・事例研究から今後の学級経営に生かせる生徒指導の方法
教育相談	27	17.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級における発達障害の傾向が強い生徒に対する言葉がけの具体 ・様々な悩みを抱える生徒に対してどのように対応すればよいか ・不登校傾向にある生徒やコミュニケーション能力に乏しい生徒への支援 ・支援を要する生徒に対する指導の視点 ・各関係機関との連携の仕方
教育法規	2	1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・教育法規全般

校内研修	12	7.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の現状に合った研修の視点 ・効果的な校内研修取り組み
校内研究	16	10.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や表現力の育成の方法に関すること ・学校公開に向けての校内研究の進め方
カリキュラム・マネジメント	30	19.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携 ・新学習指導要領施行に伴う具体的計画と実践モデル ・「教育活動の改善」や「教育内容の質の向上」、「資源の効果的な活用」の面からの有効な活用について ・端的で分かりやすい解説 ・いじめ対策を核としたカリキュラム・マネジメントの具体 ・新学習指導要領に基づく学校運営にかかわるカリキュラム・マネジメント
プログラミング教育	7	4.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向性のあるコンテンツ開発と題材 ・小学校で学んだプログラミング教育をどのようにして中学校の学習につなげるか
その他	8	5.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議システム ・家庭学習の現状と効果的な方法（Gアップシートの活用も含む） ・ICTの有効活用について ・HPの作成・管理、オンライン授業

ウ 高等学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	4	5.3%	・高校における道徳教育の推進についての事例
特別活動	1	1.3%	・部活動指導について
総合的な探究の時間	32	42.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の指導法 ・より深く探究するための、3年間を見通した計画の立て方 ・探究課題の設定方法について ・地域と学校の新しい連携 ・テーマ選定と指導計画の立て方
キャリア教育	6	7.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのリアルを知ることのできるキャリア教育 ・インターンシップを活用した職業意識の高め方
特別支援教育	22	28.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい、LGBTについて ・ADHD等をはじめとする障がいを持つ生徒への対応方法について ・具体的な支援の実践 ・発達障がい等についての理解と支援の在り方 ・SSTの進め方と計画の立て方
自立活動	3	3.9%	・特別支援が必要な生徒に対する実践例など

国際理解教育	2	2.6%	・日本語教育やマイノリティに関する配慮に関する内容
情報教育	7	9.2%	・学校での情報セキュリティに関する内容 ・ICT機器の活用に係る授業実践について
復興教育	3	3.9%	・震災を知らない世代に対しての効果的な復興教育の進め方
読書指導	3	3.9%	・朝読書の実践例
健康教育	3	3.9%	・学校における感染症対策
学校安全（災害安全）	2	2.6%	・洪水時の対応について
小規模・複式指導	1	1.3%	・小学級における指導、個別の指導計画作成時の注意点等
学級・学年経営	2	2.6%	・生徒の多様化が進んでいる中での学級経営と保護者との関わり方について
生徒指導	7	9.2%	・SNS書き込みによる嫌がらせ、被害者に対するケアの実践例と解決法 ・生徒指導と教育相談を組み合わせた研修があれば良い
教育相談	18	23.7%	・家庭環境等が複雑な生徒への関わり方に関する内容 ・支援が必要な生徒に対する校内のサポート体制のあり方 ・SC、SSWの活用について ・生徒指導と教育相談を組み合わせた研修があれば良い
教育法規	3	3.9%	・教育の法化現象に関する理解
カリキュラム・マネジメント	7	9.2%	・新学習指導要領実施に向けて、小規模校などそれぞれの学校スタイルにあった作成例やポイント ・他校の実践例
主権者教育	2	2.6%	・実践的で効果的な指導のあり方について
プログラミング教育	7	9.2%	・小中高の指導をふまえた高校段階（レベル）の指導法について ・中学校でのプログラミング教育と高校の「情報」の連携のあり方
その他	11	14.5%	・リモート授業について ・若手教員向け保護者対応 ・授業等をネット配信するための研修講座等 ・スクールロイヤー活用研修

エ 特別支援学校

	回答数	割合	主な回答
道徳教育	3	17.6%	・ 学校生活全体を通じた道徳教育の在り方 ・ 特別支援教育における道徳教育の進め方と評価
総合的な学習の時間	3	17.6%	・ 特別支援教育における総合的な学習の時間の進め方と評価
小学校外国語活動	1	5.9%	・ 聴覚障がいを持つ児童への外国語活動の指導のあり方と評価の工夫
キャリア教育	1	5.9%	・ 小中高の段階に応じたキャリア教育
特別支援教育	7	41.2%	・ 自立活動の内容を活用した個別の指導計画の作成と活用 ・ 発達検査の実施方法と結果の解釈について
自立活動	9	52.9%	・ 就労につながる自立活動の在り方 ・ 知的障がい教育における自立活動の進め方 ・ 新学習指導要領に基づいた、各障がい種に対応した自立活動の進め方
情報教育	3	17.6%	・ 高等部段階における情報モラルの指導
復興教育	1	5.9%	・ 学びを深めるための手立てを体験的に学ぶ内容
カリキュラム・マネジメント	3	17.6%	・ 教科横断的視点や組織的配列の工夫を扱う基本的内容 ・ 知的障がい教育における取組の実際について
プログラミング教育	3	17.6%	・ 教材体験 ・ 教科横断的視点で捉える特別支援学校に対応した内容
その他	3	17.6%	・ 幼稚園（支援学校幼稚部）での幼児への教育実践と指導の工夫等について ・ てんかんの種類とその対応

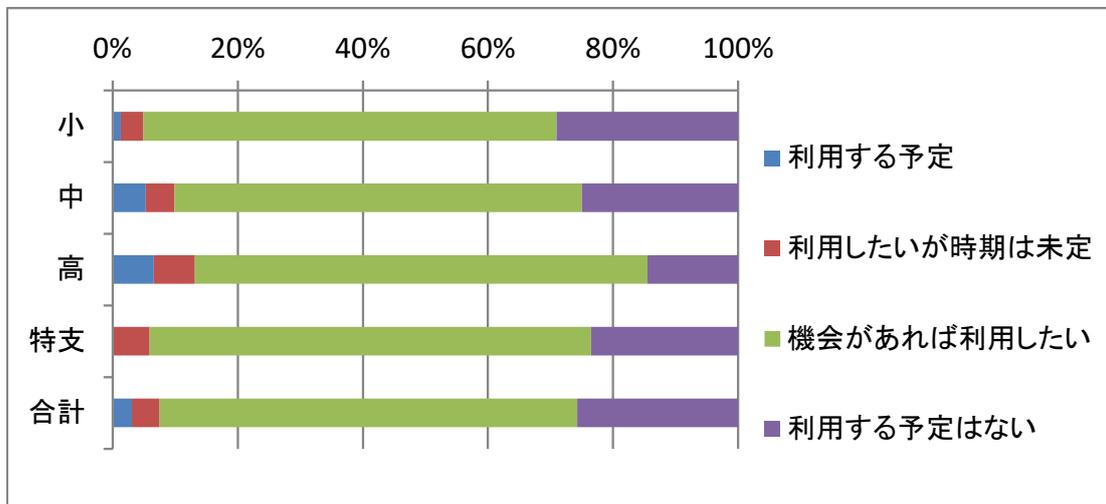
3 支援業務推進に関わる調査

(1) 教育相談に関わる調査（質問11）

【質問11】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員等に対して、学校生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今年度、この教育相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計
利用する予定	4	8	5	0	17
利用したいが時期は未定	11	7	5	1	24
機会があれば利用したい	200	99	55	12	366
利用する予定はない	88	38	11	4	141

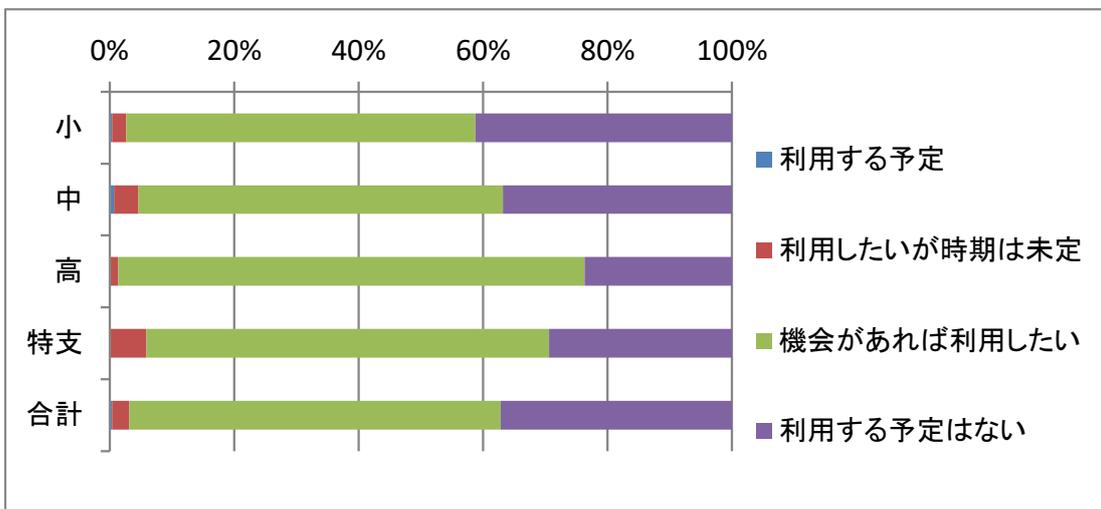
	小	中	高	特支	合計	H30	H28
利用する予定	1.3%	5.3%	6.6%	0.0%	3.1%	4.0%	3.1%
利用したいが時期は未定	3.6%	4.6%	6.6%	5.9%	4.4%	4.1%	4.4%
機会があれば利用したい	66.0%	65.1%	72.4%	70.6%	66.8%	64.0%	63.8%
利用する予定はない	29.0%	25.0%	14.5%	23.5%	25.7%	27.9%	28.7%



(2) どうぶ相談に関する調査 (質問 12)

【質問 12】 総合教育センターでは、「質問 11」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今年度、このどうぶ相談を利用する予定がありますか。

	小	中	高	特支	合計		小	中	高	特支	合計	H30	H28
利用する予定	1	1	0	0	2	利用する予定	0.3%	0.7%	0.0%	0.0%	0.4%	4.0%	0.3%
利用したいが時期は未定	7	6	1	1	15	利用したいが時期は未定	2.3%	3.9%	1.3%	5.9%	2.7%	1.8%	1.9%
機会があれば利用したい	170	89	57	11	327	機会があれば利用したい	56.1%	58.6%	75.0%	64.7%	59.7%	57.8%	57.7%
利用する予定はない	125	56	18	5	204	利用する予定はない	41.3%	36.8%	23.7%	29.4%	37.2%	39.6%	40.1%



4 研究業務推進に関わる調査

(1) センターの研究の活用状況に関する調査（質問13）

【質問13】総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。令和元年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。（複数選択可）

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究－「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例とWE-CANシートの活用を通して－（2年研究2年次）	88	29.0%	17	11.2%	1	1.3%	0	0.0%	106	19.3%
②幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究－低学年の発達の特性に合わせた指導の工夫・改善とその推進体制作り－	47	15.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%	48	8.8%
③高等学校理科における探究の過程を主体的に進める授業の在り方に関する研究－科学的に課題を解決する「探究マップ」の開発とその活用を通して－	0	0.0%	1	0.7%	14	18.4%	0	0.0%	15	2.7%
④中学校技術・家庭科〔技術分野〕における情報活用能力の育成に関する研究－ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングの学習を通して－	1	0.3%	18	11.8%	3	3.9%	0	0.0%	22	4.0%
⑤早期からの継続した教育支援体制の整備に関する研究－小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して－	60	19.8%	42	27.6%	27	35.5%	1	5.9%	130	23.7%
⑥「見方・考え方」を働かせ、社会参画意識を高める授業の在り方に関する研究－新科目「公共」における大項目A「公共の扉」の単元構想と教材化の工夫を通して－	3	1.0%	2	1.3%	9	11.8%	0	0.0%	14	2.6%
⑦小学校理科「音の伝わり方と大小」と「雨水の行方と地面の様子」における資質・能力を育成するための授業の在り方に関する研究－観察、実験の位置付けが明確で見方・考え方を働かせる授業の構想と実践を通して－	18	5.9%	4	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	22	4.0%
⑧知的障がい教育における教育課程の適切な実施に関する研究（特別支援学校小学部）－「各教科等を合わせた指導」での目標、内容、方法、学習評価の一体化を通して－	26	8.6%	4	2.6%	0	0.0%	3	17.6%	33	6.0%
⑨知的障がい教育における教育課程の適切な実施に関する研究（小学校特別支援学級）－学びの連続性を踏まえた単元構成・授業づくりを通して－	51	16.8%	4	2.6%	0	0.0%	1	5.9%	56	10.2%
特になし	130	42.9%	77	50.7%	35	46.1%	0	0.0%	242	44.2%

※上位3項目を色づけ（特になしを除く）特支は1項目

(2) センターの研究の活用状況に関する調査 (質問 14)

【質問 14】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 30 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究－WE-CANシートの開発・活用を通して－(2年研究1年次)	69	22.8%	10	6.6%	0	0.0%	0	0.0%	79	14.4%
②小・中・高等学校理科における資質・能力の育成を目指した理科授業の在り方に関する研究－学習内容と日常生活とのつながりを図る教材開発を通して－	9	3.0%	20	13.2%	5	6.6%	0	0.0%	34	6.2%
③論理的思考力を育むプログラミングの体験の在り方に関する研究－小学校における総合的な学習の時間の指導を通して－	95	31.4%	2	1.3%	1	1.3%	0	0.0%	98	17.9%
④高等学校における特別支援教育の推進に関する研究－校内研修プログラムの作成及び各校のニーズに応じた活用を通して－	4	1.3%	1	0.7%	17	22.4%	1	5.9%	23	4.2%
⑤幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究－子供の発達や学びをつなぐ生活科を中心としたカリキュラムの作成と実施を通して－	28	9.2%	1	0.7%	0	0.0%	1	5.9%	30	5.5%
⑥高等学校生物「遺伝子とその働き」における観察・実験に関する研究－遺伝子を扱う教材・教具の開発と活用方法の構築を通して－	1	0.3%	1	0.7%	10	13.2%	0	0.0%	12	2.2%
⑦高等学校における通級による指導の充実に関する研究－キャリア発達を支援する自立活動を通して－	3	1.0%	1	0.7%	16	21.1%	0	0.0%	20	3.6%
⑧特別支援教育コーディネーターの業務の推進に関する研究－多様なニーズをもつ一人一人の子供の育ちを支える関係機関連携を目指して－	49	16.2%	30	19.7%	17	22.4%	1	5.9%	97	17.7%
特になし	141	46.5%	99	65.1%	36	47.4%	1	5.9%	277	50.5%

※上位3項目を色づけ(特になしを除く)

(3) センターの研究の活用状況に関する調査 (質問 15)

【質問 15】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。平成 29 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んでください。(複数選択可)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
①資質・能力の「三つの柱」(総論)	71	23.4%	38	25.0%	14	18.4%	0	0.0%	123	22.4%
②資質・能力の「三つの柱」(中学校国語／高等学校国語)	2	0.7%	24	15.8%	7	9.2%	0	0.0%	33	6.0%
③資質・能力の「三つの柱」(中学校社会／高等学校地理歴史・公民)	1	0.3%	22	14.5%	9	11.8%	0	0.0%	32	5.8%
④資質・能力の「三つの柱」(中学校数学／高等学校数学)	2	0.7%	29	19.1%	10	13.2%	0	0.0%	41	7.5%
⑤資質・能力の「三つの柱」(中学校理科／高等学校理科)	1	0.3%	19	12.5%	8	10.5%	0	0.0%	28	5.1%
⑥資質・能力の「三つの柱」(中学校外国語／高等学校外国語)	0	0.0%	25	16.4%	8	10.5%	0	0.0%	33	6.0%
⑦小学校道徳科における評価の在り方に関する研究－児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、評価する方法の充実を目指して－	135	44.6%	6	3.9%	0	0.0%	2	11.8%	143	26.1%
⑧中学校道徳科における評価の在り方に関する研究－認め、励ます評価に生かす自己評価の分析を通して－	9	3.0%	61	40.1%	1	1.3%	2	11.8%	73	13.3%
⑨物理法則の有用性を実感させ、興味・関心を高める高等学校「物理」の研究－日常生活とのつながりを重視した教材の開発と活用を通して－	0	0.0%	0	0.0%	7	9.2%	0	0.0%	7	1.3%
⑩小規模な高等学校における教育の質を確保するための遠隔授業の実証的調査研究(2年次)	0	0.0%	0	0.0%	2	2.6%	1	5.9%	3	0.5%
⑪論理的思考力を育むプログラミングの体験の在り方に関する研究－小学校算数科・理科の指導を通して－	35	11.6%	2	1.3%	1	1.3%	0	0.0%	38	6.9%
⑫高等学校における「通級による指導」の導入に関する研究－校内教育支援の体制面と運用面の整備を通して－	1	0.3%	0	0.0%	14	18.4%	4	23.5%	19	3.5%
⑬中学校における通級による指導の充実に関する研究－通常の学級とのつながりを重視した自立活動を通して－	1	0.3%	13	8.6%	0	0.0%	3	17.6%	17	3.1%
⑭特別支援学校におけるセンター的機能の充実に関する研究－多様なニーズへの対応を可能にする校内体制の確立を通して－	13	4.3%	5	3.3%	5	6.6%	14	82.4%	37	6.8%
特になし	113	37.3%	49	32.2%	37	48.7%	2	11.8%	201	36.7%

※上位 3 項目を色づけ (特になしを除く)

(4) センターの研究の活用状況に関する調査 (質問 16) [自由記述]

【質問 16】平成 28 年度以前の研究で児童生徒の学力向上や授業改善等に役立っている研究成果物があれば記述してください。

[自由記述]

※回答数が複数であったもの

研修内容	回答数
・ 指導案データベース	6
・ 岩手県教育研究発表会資料	5
・ G アップシート	5
・ 主体的に学習する子どもを育てる複式学級の授業改善 に関する研究－間接指導を充実させる映像資料集作成を目指して－	5
・ 校内授業研究の進め方ガイドブック I・II・III	4
・ 特別支援教育におけるタブレット PC 活用	3
・ 理科の研究全般	3
・ 校内授業研究の進め方ガイドブック	3
・ 特別支援学校 (知的障がい) における進路指導の充実に関する研究－進路・就労支援ハンドブックの活用を通して－	2
・ 学習指導要領を具体化する小・中・高等学校国語科の指導法に関する研究	2
・ ことばの教室タブレット用 Web アプリ「ことたぶ」	2
・ 資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究	2
・ 校内における人材育成の進め方	2
・ 進路・就労支援ハンドブック	2
・ 交流及び共同学習ガイドブック	2
・ 中高社会「AL」研究	2
・ 授業における ICT の活用	2

(5) Gアップシート・Gベース活用状況に関する調査（質問17）

【質問17】Gアップシート・Gベースをどのように活用していますか。

	おおいに活用している	ある程度活用している	あまり活用していない	活用していない
中学校	27 (17.8%)	99 (65.1%)	22 (14.5%)	4 (2.6%)

(6) 研究成果物の情報入手方法に関する調査（質問18）

【質問18】「質問13～17」で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。
以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計		H30	H28
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
岩手県教育研究発表会	100	33.0%	44	28.9%	9	11.8%	4	23.5%	157	28.6%	32.6%	34.5%
提案授業	1	0.3%	0	0.0%	1	1.3%	0	0.0%	2	0.4%	0.5%	
「教育研究岩手」	18	5.9%	8	5.3%	9	11.8%	2	11.8%	37	6.8%	1.4%	12.4%
センターのWebページ	94	31.0%	54	35.5%	26	34.2%	8	47.1%	182	33.2%	33.9%	39.5%
研修資料	25	8.3%	15	9.9%	18	23.7%	1	5.9%	59	10.8%	10.3%	20.6%
センターのメールマガジン	37	12.2%	16	10.5%	4	5.3%	0	0.0%	57	10.4%	6.7%	9.8%
研究紹介リーフレット	8	2.6%	7	4.6%	5	6.6%	1	5.9%	21	3.8%	4.9%	3.8%
他者からの紹介	5	1.7%	6	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	11	2.0%	2.5%	4.9%
その他	15	5.0%	2	1.3%	4	5.3%	1	5.9%	22	4.0%	3.6%	3.8%
計	303	100.0%	152	100.0%	76	100.0%	17	100.0%	548	100.0%	96.4%	129.3%

(7) スタートカリキュラムに関する調査（質問19）

【質問19】スタートカリキュラムを就学先に渡していますか。

	渡している	渡していない
小学校	130 (42.9%)	173 (57.1%)

(8) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査 (質問 20)

[自由記述]

【質問 20】 貴校の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

ア 小学校

回答内容	回答数	H30	H28
特別な支援を要する児童への対応	29 (9.6%)	7.0%	8.2%
新学習指導要領のねらいに即した評価の実際	16 (5.3%)	—	—
プログラミング教育	15 (5.0%)	—	—
小規模・複式指導	13 (4.3%)	8.3%	11.9%
算数科の指導	10 (3.3%)	—	4.0%
その他	92 (30.4%)	45.7%	43.9%
計(割合)	175 (57.8%)	61.0%	68.0%

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目

イ 中学校

回答内容	回答数	H30	H28
授業改善	14 (9.2%)	8.3%	8.2%
小中連携・異校種連携	8 (5.3%)	3.2%	3.8%
道徳の指導と評価	7 (4.6%)	5.3%	3.8%
特別な支援を要する生徒への対応	7 (4.6%)	—	5.7%
ICT 活用、オンライン授業	5 (3.3%)	—	—
その他	43 (28.3%)	38.6%	39.9%
計(割合)	84 (55.3%)	55.4%	61.4%

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目

ウ 高等学校

回答内容	回答数	H30	H28
ICT 活用、オンライン授業	12 (15.8%)	—	—
授業改善	11 (14.5%)	5.8%	2.8%
高等学校における特別な支援を要する生徒への対応	4 (5.3%)	—	6.9%
その他	8 (10.5%)	39.1%	50.0%
計(割合)	35 (46.1%)	44.9%	59.7%

※今回調査で回答数の多いもの上位3項目

エ 特別支援学校

※内容別の回答数については、回答が少数であるため省略

(回答例)

- ・ 視覚支援学校における重複障がいのある児童生徒の教育内容・学習指導の在り方に関する研究
- ・ 特別支援教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・ 新学習指導要領を具現化するヒントとなるような先進的な実践研究
- ・ 高等学校における特別な支援を必要とする生徒の進路先と定着状況
- ・ 新学習指導要領における各教科の内容に関する実践的な研究
- ・ 発達障がいの児童生徒への対応
- ・ 教育相談に関わる研究（事例に即した手引き等）
- ・ 特別支援教育における総合的な学習の時間の進め方と評価に関する研究
- ・ 働き方改革を含むカリキュラム・マネジメントに関する研究

5 研修・支援・研究業務への意見・要望

(1) 意見・要望に関する調査（質問 21） [自由記述]

【質問 21】総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

回答内容	回答数	H30	H28
講座等の研修全般に関すること	42 (7.7%)	6.3%	7.0%
教材開発等に関すること	18 (3.3%)	0.7%	1.2%
研究に関すること	15 (2.7%)	4.1%	5.2%
要請研修に関すること	14 (2.6%)	0.9%	2.3%
この調査に関すること	6 (1.1%)	—	—
計(割合)	95 (17.3%)	12.6%	16.4%

※今回調査で回答数の多いもの上位5項目

※お寄せいただいた意見・要望への当センターからの回答は、p45に掲載しております。

(回答例：一部)

小 学 校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談で助けられた事案がありました。（すぐに医療につながることが困難な場合の事案など） ・昨年度の2月下旬に、実機（スマホ）を用いた情報モラル授業を本校に出向いて行っていただきました。その授業を参観することを通して指導法についても学ばせていただきました。情報モラル教育について更に研修を深めていきたいと思えます。 ・新学習指導要領が本格実施となり、「外国語」「プログラミング教育」「特別の教科 道徳」の授業実践や授業のアイデアなどを、web ページにアクセスしてすぐに活用できるように、情報提供をしていただけるとありがたい。 ・この調査は、2月か3月に行っていただくと、転任する前に勤務していた学校のことで考えることができるので良いと思えます。 ・学習指導要領改訂に伴い、これまでにはなかった新たな指導内容等について、早期により多くの情報等を提供していただくとありがたいです。 ・とても意義のある研修が行われていると感じていますが、こちらが実際に目にしたりよさを実感したりできる機会が少なく、残念に思えます。本校は遠方のため、なかなか研修に行くことも難しい状況です。もう少し広く周知していただけると活用しやすいかと感じます。 ・希望研修の日がちが学期末に設定されていることが多いので、できればそこを外してほしい。 ・今後とも現場レベルで即活用可能な研究を進めていただけるようお願いします。 ・岩手県教育研究発表会の更なる充実を期待しております。 ・中止・延期された講座について、この状況が収束したら行ってほしい。 ・研修講座がコロナ対策で中止になりとても残念でした。資料のみでも参考にしていきたいと思えます。
-------------	--

<p>中 学 校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、初任研・2年目研・3年目研で、講座の重複がありました。教職員の資質能力向上の視点からも系統的な内容の組立てをお願いしたい。 ・教育関係資料をネット上で探すとき、キーワードで検索すると、他県の教育センターの資料の方が豊富に見つかります。岩手県の資料も多くの先生に見ていただくために、目に触れる機会を増やす工夫ができればよいと思っています。 ・新型コロナウイルスによる研修講座の補填及び情報発信を可能であれば、お願いいたします。 ・ネット上で他県の資料やピンポイントにニーズに応える研究成果を検索することができ、センターの研究への依存度が低くなっている状況があると思いますが、岩手県の研究の先駆としてこれからも引き続き参考にさせて頂きたいと考えます。 ・初任研のセンター研修において、コロナ対応で資料を読み、レポート作成という代替措置でしたが、他の措置は講じられないものでしょうか。研修に深まりがないように思われました。 ・指導案データベースのさらなる充実をお願いします。 ・希望研修の日にち設定を、できれば学期末を避けてほしい。 ・このような調査は年度内に実施したほうが、研修の実態がより明らかになり、研修や講座の内容に反映されると思います。また、【研修成果の活用】について、昨年度より前のことを回答するのは難しいと思います。
<p>高 等 学 校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センターにおいて各先生方が、何の目的で研究しているのか、どのようなテーマで研究をなさっているのか。情報発信してほしい。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策により、研修講座が中止の対応となっているが、研修講座テキスト等を公開していただくと、現場において教員の研修の機会を得ることができると思います。どうぞよろしくお願いいたします。 ・タイムリーな研修と近年の研究成果が少ないように思っています。よって、希望研修やホームページを活用する機会も減ってしまう傾向にあるのではと思っています。 ・本校では貴センターでの研修参加を積極的に呼びかけています。年間の研修講座案内も必要ですが、職員に周知するために研修講座毎の案内もあれば良いと思います。
<p>特 別 支 援 学 校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究、研究成果物などすばらしい内容であるが、うまく活用されていないように感じる。情報発信の工夫が必要ではないか。 ・ホームページの学習指導案データベースを授業づくりに活用している。最新のデータを追加していただきたい。 ・研修「WISC-Ⅳの検査結果を生かした支援」は希望する職員が多いので、年に2回開催してほしい。

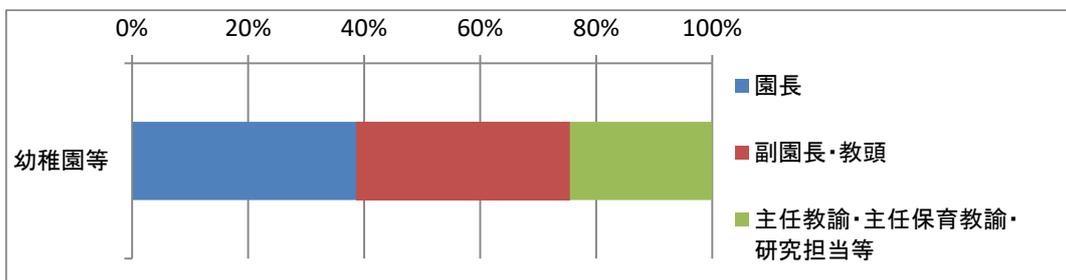
Ⅲ 研修・支援・研究業務の推進に関する調査（幼稚園）

1 回答者に関する調査（質問1）

【質問1】回答者の職名（分掌）を次の中から一つ選んで回答してください。

	幼稚園等
園長	41
副園長・教頭	39
主任教諭・主任保育教諭・研究担当等	26

	幼稚園等	H30	H28
園長	38.7%	54.5%	39.2%
副園長・教頭	36.8%	22.8%	45.1%
主任教諭・主任保育教諭・研究担当等	24.5%	22.8%	15.7%



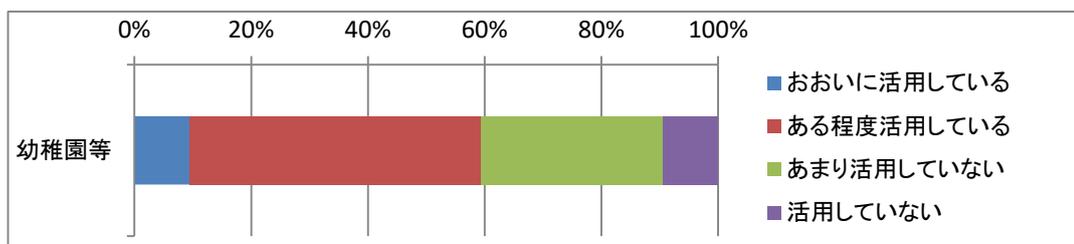
2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修活用状況に関わる調査（質問3）

【質問3】回答者からみて、貴園職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。

	幼稚園等
おおいに活用している	10
ある程度活用している	53
あまり活用していない	33
活用していない	10

	幼稚園等	H30	H28
おおいに活用している	9.4%	14.6%	15.7%
ある程度活用している	50.0%	47.2%	64.7%
あまり活用していない	31.1%	24.4%	13.7%
活用していない	9.4%	13.8%	5.9%



(2) 活用している研修（質問4） [自由記述]

【質問5】「質問3」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を学校で活用していますか。

回答内容	回答数	割合	H30	H28
基本研修（初任研、中堅研）	32	30.2%	26.0%	41.2%
岩手県幼稚園等教育課程説明会	14	13.2%	4.9%	—
希望研修	12	11.3%	4.9%	—
教育研究発表会	10	9.4%	8.1%	13.7%
保育技術協議会	8	7.5%	8.1%	—

※今回調査で回答数の多いもの、上位5項目

(3) 活用していない理由に関わる調査（質問5） [自由記述]

【質問5】「質問3」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみお答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。

回答内容	回答数	割合	H30	H28
職員が少ない／日程が合わない	14	13.2%	4.9%	—
参加する機会がない／参加したことがない	11	10.4%	22.8%	11.8%
研修内容が園の実情と合っていない	8	7.5%	—	7.8%
個人研修にとどまっている 園全体の活用になっていない	6	5.7%	—	—

※今回調査で回答数の多いもの、上位4項目

(4) センターの研修内容として取り上げてほしいこと (質問6)

【質問6】 貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研修内容として取り上げてほしいことを、以下の具体的内容から選んで回答してください。(複数選択可)

回答内容	回答数	割合	H30	H28
幼児教育の動向	18	17.0%	21.1%	25.5%
指導計画の作成	25	23.6%	22.0%	15.7%
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	41	38.7%	55.3%	—
5領域に関すること	6	5.7%	8.9%	13.7%
協同的な学び	15	14.2%	8.9%	17.6%
小学校との接続	30	28.3%	26.8%	17.6%
指導と評価に生かす記録	49	46.2%	39.0%	43.1%
子育ての支援	20	18.9%	8.9%	11.8%
家庭や地域との連携	10	9.4%	13.8%	5.9%
幼児期の特別支援教育	37	34.9%	37.4%	29.4%
園内研究	16	15.1%	13.0%	21.6%
園内研修	31	29.2%	26.8%	
学校評価	16	15.1%	6.5%	9.8%
カリキュラム・マネジメント	10	9.4%	13.8%	—
その他	6	5.7%	1.6%	2.0%

※今回調査上位5項目を色づけ

(5) センターの研修として取り上げてほしい研修内容 (質問7) [自由記述]

【質問7】「質問6」で選択した研修内容として具体的にどのような内容を取り上げてほしいですか。

回答内容	回答数	割合	
幼児教育の動向	18	17.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在とこれからの幼児教育の動向について ・ 幼児教育に今後求められていく傾向と国の施策としての動向 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、どのように幼児教育が変容するのか ・ 小学校との接続・他地域の実施状況など最新の情報
指導計画の作成	25	23.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援の必要な幼児の指導計画の立て方とその幼児が属する学級の指導計画との関連性の持たせ方 ・ 若い先生方にも分かる指導計画の作成について ・ 教育課程を理解し指導計画を作成する際の教師の工夫や評価を生かした計画の作成 ・ 認定こども園教育、保育要領に沿って、どのように指導計画等を作成していけばよいか
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	41	38.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各年齢の幼児の具体的な姿 ・ 小学校との接続における現状と課題について ・ 具体的実践例、具体的理解 ・ 5領域との関連 ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた要録の記入について ・ どのような能力を育てていくか ・ 初任者向けの具体的な内容
5領域に関すること	6	5.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連
協同的な学び	15	14.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年長児の協同性につなげるために年少・年中児で必要なこと ・ 協同的な学びや経験が深まっていくための保育者の援助や環境構成 ・ 協同的な学びを指導計画にどう生かしていけばよいか
小学校との接続	30	28.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校との円滑な接続をするための教師間での研修等の工夫 ・ 小学校として幼小接続をどのように考えているのか ・ 接続期カリキュラムと指導方法 ・ 小学校教育の十分な理解 ・ 幼児期の学びが小学校へどう接続されていくか ・ 幼小交流の実践例や職員間の相互理解 ・ 他園、他地域の実践例

<p>指導と評価に生かす記録</p>	<p>49</p>	<p>46.2%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような記録の様式に記入すると指導、評価に生かせるか ・ 保育実践記録から3つの資質・能力や10の姿に整理し教師の援助や環境構成の在り方を学ぶ ・ 次の指導につなげる記録の書き方 ・ こども園への移行に伴う記録の取り方の留意点 ・ 保育の質を高める記録の取り方 ・ 日常の記録となるうえでの観察のポイントや記録の具体的事例から学ぶ ・ 中堅職員向けの実践演習
<p>子育ての支援</p>	<p>20</p>	<p>18.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援の具体的な方法と関係機関との連携について ・ 子育て支援における幼稚園の役割 ・ 他園で行われた効果的な支援について ・ 親が子育てを喜び楽しんで過ごす事ができるような支援のあり方 ・ 親と子が共に育ち合う子育ての支援について ・ 乳幼児のための子育て支援広場について ・ 不安を抱える母親へのケアと入園につなげる工夫
<p>家庭や地域との連携</p>	<p>10</p>	<p>9.4%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化、小規模園化、核家族化している現在の状況の中で園が進める連携の仕方について ・ 保護者の教育・保育に関する理解が深まるような発信の工夫や情報交換の方法 ・ 園にとってだけでなく、家庭や地域にとってもプラスとなるような連携の在り方
<p>幼児期の特別支援教育</p>	<p>37</p>	<p>34.9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な支援を要する子の見取りと支援の工夫 ・ 特別支援の必要な幼児の指導計画の立て方とその幼児が属する学級の指導計画との関連性の持たせ方 ・ 他機関と連携を取りながら行う特別支援教育の課題について ・ 個別の教育・保育支援計画の作成・活用について ・ 発達段階に応じた一人一人へのかかわり方や、特別支援についての保護者との理解の深め方 ・ 特別支援児、健常児が共に育ちあう学級づくり ・ 実際の映像等を活用した研修
<p>園内研究</p>	<p>16</p>	<p>15.1%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内研究の進め方にける教師同士の活発な意見の出し合い方やその評価の仕方について ・ 研究リーダーの進め方のポイントやとらえ方など具体的なもの ・ テーマの設定と仮説に対するアプローチ方法と実践記録の仕方 ・ 他園の園内研究や園内研修の内容の紹介 ・ 園内研究の具体的な進め方

園内研修	31	29.2%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同僚性をはぐくむ園内研修について ・ 他園の園内研究や園内研修の内容の紹介 ・ 参加型園内研修の進め方 ・ 園内研修で職員が学び合うためのコツ ・ 保育者が主体的に学べる研修の進め方について ・ 効果的な園内研修の事例 ・ 気づきと学びを促す園内研修
学校評価	16	15.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他園の取組事例 ・ 基本的な考え方から具体的な例まで ・ 学校評価の指標となる具体的内容 ・ 評価の内容やアンケートについて ・ 第三者評価の実例
カリキュラム・マネジメント	10	9.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラム・マネジメントの具体的事例
その他	6	5.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所との交流、連携について ・ 少人数保育の中の課題解決

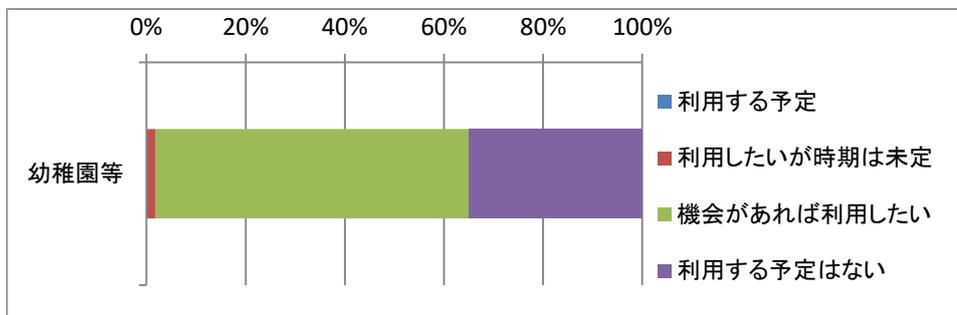
3 支援業務推進に関わる調査

(1) 教育相談（質問8）

【質問8】総合教育センターでは、幼児児童生徒、保護者並びに教職員に対して、学校・園生活や特別な支援に関する教育相談を行っています（電話相談、来所相談、訪問相談）。今年度、この教育相談を利用する予定がありますか。

	幼稚園等
利用する予定	0
利用したいが時期は未定	2
機会があれば利用したい	67
利用する予定はない	37

	幼稚園等	H30	H28
利用する予定	0.0%	2.5%	0.0%
利用したいが時期は未定	1.9%	0.8%	0.2%
機会があれば利用したい	63.2%	49.6%	54.9%
利用する予定はない	34.9%	47.1%	43.1%

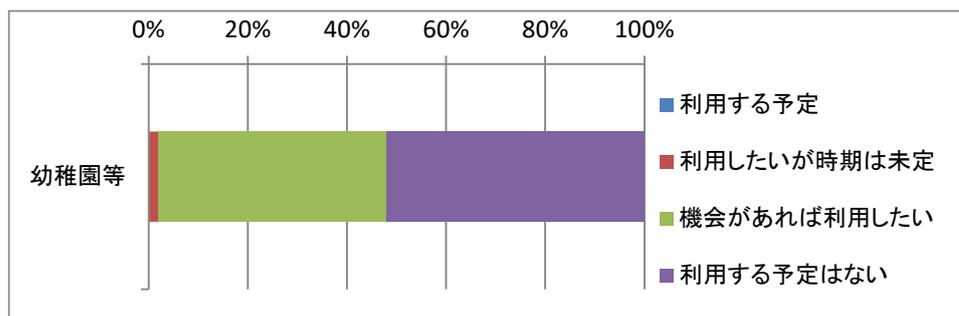


(2) どようび相談（質問9）

【質問9】総合教育センターでは、「質問8」の教育相談のうち、来所相談を土曜日にも行っています。今年度、この「どようび相談」を利用する予定がありますか。

	幼稚園等
利用する予定	0
利用したいが時期は未定	2
機会があれば利用したい	49
利用する予定はない	55

	幼稚園等	H30	H28
利用する予定	0.0%	0.8%	0.0%
利用したいが時期は未定	1.9%	0.8%	0.0%
機会があれば利用したい	46.2%	33.6%	43.1%
利用する予定はない	51.9%	64.8%	56.9%



4 研究業務推進に関わる調査

(1) センターの研究の活用状況に関する調査 (質問 10)

【質問 10】 総合教育センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。これまでの研究成果物の中で、貴園の教育活動の充実に役立ったと思うものがありましたら選んでください (複数選択可)

	回答数	割合
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究－低学年の発達の特性に応じた指導の工夫・改善とその推進体制づくり－(令和元年度)	27	25.5%
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究－子供の発達や学びをつなぐ生活科を中心としたカリキュラムの作成と実施を通して－(平成 30 年度)	28	26.4%
幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方に関する研究－親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して－(平成 27 年度)	24	22.6%
幼稚園における幼児一人一人が共に育ち合う指導の在り方に関する研究－特別支援教育園内体制の構築をととして－(平成 19・20 年度)	8	7.5%
幼小連携のカリキュラム作りに関する研究－発達段階に応じた子どもの学びを軸として－(平成 18 年度)	3	2.8%
幼小連携の進め方に関する研究－幼児児童の感性をはぐくむ音楽的な活動をととして－(平成 15・16 年)	3	2.8%
特になし	52	49.1%

(2) 研究成果物の情報入手方法に関する調査 (質問 11)

【質問 11】 「質問 10」で回答した研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法として最も多かったものを一つ選んでください。

	回答数	割合	H30	H28
岩手県教育研究発表会	19	35.2%	46.9%	35.7%
「教育研究岩手」	10	18.5%	22.4%	25.0%
センターWeb ページ	7	13.0%	10.2%	3.6%
研修資料	15	27.8%	46.9%	0.0%
センターのメールマガジン	0	0.0%	0.0%	0.0%
研究紹介リーフレット	1	1.9%	0.0%	7.1%
他者からの紹介	0	0.0%	4.1%	7.1%
その他	2	3.7%	12.2%	21.4%

※上記の表の今回調査の割合は、下記の表の回答園数を基準とする。

	合計
回答園数	54

(3) 教育体制に関する調査 (質問 12)

【質問 12】 日々の保育や専門的内容 (特別支援教育や危機管理等) で悩んだ時に、相談できる機関・団体はありますか。

相談できる機関・団体	回答	割合
有	82	77.4%
無	24	22.6%

(4) 教育体制に関する調査 (質問 13) [自由記述]

【質問 13】 「質問 12」で、「有」と回答した場合にのみお答えください。どのような悩みをどの機関に相談したのかを記入してください

機関	回答数	具体的内容
市町村 教育委員会	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援児の就学指導について ・ 子どもの発達の特性について ・ 日々の保育の計画・実施・評価等について園内研に来ていただき指導していただく
特別支援 コーディネーター	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な幼児の指導の手立て等について、特別支援エリアコーディネーター等、近隣の特別支援学校と連携している ・ 岩手大学教育学部附属特別支援学校 ・ 盛岡大学短期大学部
市町村 児童福祉課	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への対応について ・ 支援を要する子の発達相談 ・ 保護者支援について
発達支援 センター	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の保育の援助の仕方や保護者との連携などについて相談 ・ 特別支援が必要な園児の発達や支援の仕方について相談
巡回相談	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の援助が必要な子への適切な対応方法を相談 ・ 幼児の発達面での気になることや療育につなげていく相談 ・ カンファレンスなど
療育センター	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検診の様子や幼稚園での様子を情報交換 ・ 気になる子の支援の仕方について
子育て支援 センター	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な支援を要する園児とその保護者への対応について

(5) 教育課程に関する調査 (質問 14)

【質問 14】 近隣の園同士での教育課程の共有はなされていますか。

近隣の園同士での教育課程の共有	回答	割合
有	19	17.9%
無	87	82.1%

(6) 教育課程に関する調査 (質問 15) [自由記述]

【質問 15】 共有したものをどのように保育に活用したかを記入してください。

教育課程 指導計画	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市立園の保育者（教諭・保育士）が参集し、公立保育園の保育課程の見直し改善を行うなどの作業を通して共有している。公立幼稚園の教諭も入園前の育ちについて保育課程を参考にしている。 ・ 教育課程を共有している。 ・ 町内 3 園で作成し自園の全体計画や年間計画に反映させている。
他園との共 同	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の園の情報も互いにやり取りして、よい内容表記や様式があった場合、参考にして改善に活かす。 ・ ほぼ同じ小学校に就学するので近隣の保育園と何度か講習活動を行っている。 ・ 行事への取り組み
研究	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区 3 園で 2 年毎にテーマを決め共同で研究を行っている。

(7) 教育課程に関する調査 (質問 16)

【質問 16】 該当小学校区内で、接続期のカリキュラムが作成、共有されていますか。

接続期のカリキュラム作成、共有	回答	割合
有	38	35.8%
無	68	64.2%

(8) 教育課程に関する調査 (質問 17) [自由記述]

【質問 17】 共有したものをどのように保育に活用したかを記入してください。

園内研修 園内研究	36	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部研修や参考文献をもとに現在の自園で学ぶべきこと、大切なこと、至らないことなどを整理しテーマを決めてワークショップ方式等で園内研修を進めている。 ・ 主幹保育教諭を中心に毎年度、研究・研修課題について検討し月1回のペースでテーマに沿って進めている。 ・ 研究主任がリーダーになり研究資料の提案等、役割分担を決め進めている。 ・ 園内授業研究会に、小学校にも声をかけ、授業参観してもらうなど、研究内容の共有を図っている。 ・ 地区の研究内容と園の研究内容に整合性をもたせて、より実践的な内容とした。
指導主事からの助言	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回指導主事の先生に来ていただき研究内容や保育について指導いただいている。

(9) スタートカリキュラムに関する調査 (質問 18)

【質問 18】園児の就学先小学校からスタートカリキュラムが示されていますか。

就学先小学校からのスタートカリキュラム	回答	割合
有	39	36.8%
無	67	63.2%

(10) スタートカリキュラムに関する調査 (質問 19) [自由記述]

【質問 19】「質問 18」で、「有」と回答した場合にのみお答えください。スタートカリキュラムの作成にかかわって、小学校と協議したり、意見を求められたりしましたか。

スタートカリキュラム作成の際の小学校との協議	回答	割合
有	26	66.7%
無	13	33.3%

※上記の表の割合は、下記の表の回答園数を基準とする。

	合計
回答園数	39

(11) センターの研究として取り上げてほしいものに関する調査 (質問 20)

[自由記述]

【質問 20】貴園の課題を解決するために、総合教育センターの研究として取り上げてほしいことを、具体的にお書きください。

回答内容	回答数	H30
幼児期の特別支援教育	8 (7.5%)	6.5%
園運営・教育課程	6 (5.7%)	12.2%
幼小接続	5 (4.7%)	3.3%
その他	25 (23.6%)	21.9%
計(割合)	44 (41.6%)	43.9%

※今回調査で回答数の多いもの上位3項目

5 研修・支援・研究業務への意見・要望

(1) 意見・要望に関する調査（質問 21） [自由記述]

【質問 21】 総合教育センターの業務全般にかかわって、ご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

回答内容	回答数	H30	H28
講座等の研修全般に関すること	13	7.3%	11.8%
研究や刊行物に関すること	6	0.8%	3.9%
要請研修に関すること	2	1.6%	5.9%
幼児教育センターに関すること	2	—	—
計(割合)	23 (21.7%)	9.8%	21.6%

※今回調査で回答数の多いもの上位3項目

※お寄せいただいた意見・要望への当センターからの回答は、p50に掲載しております。

(回答例：一部)

- ・園内中核リーダー研修が運動会前、発表会前になることが多く、なかなか参加させることができない。とても良い内容なので残念に思うことがある。
- ・今年度は新型コロナウイルスの影響で研修参加が難しい状況になっているので、次年度の研修では対象者に幅を持たせて欲しい。
- ・研修会には参加したい、させたいという気持ちはありますが、平日はなかなか時間の確保が難しく（代替え教諭の確保等）…今後検討しながら、参加出来るようにしていきたいと思っています。
- ・刊行物や報告書等、分類整理しながら、資質向上に活用したいと思います。
- ・本調査によって、センターで取り組んでいる研究を拝見しないままに日々過ごしていたのだと感じた。開かれている研修講座はもちろんだが、センターの研究を積極的に活用できるようにしていきたい。
- ・今後、研究成果物を参考にさせて頂き、保育に役立てていきたい。
- ・幼児教育センター（仮）の設立に期待しています。

IV 分析・考察

1 小・中・高・特別支援学校についての分析・考察

「研修」について

<研修内容の活用について>

- 1 特別支援教育の研修を活用していると回答した割合は、小学校(17.5%)、中学校(9.8%)、高等学校(18.4%)、特別支援学校(29.4%)であり、全ての校種において上位5項目の中に入った。特別に支援が必要な児童生徒への対応等に関する研修は、初任者研修及び教職専門等研修、教育相談等研修、特別支援教育研修等で幅広く実施することとし、学校や研修者のニーズに応じた内容が受講できるよう、引き続き充実を図っていく。
- 2 小学校はプログラミング教育、中学校・高等学校・特別支援学校は情報教育の活用割合が、H30年度比で小学校+8.9ポイント、中学校+4.6ポイント、高等学校+11.8ポイント、支援学校+11.8ポイントとなった。学習指導要領の目標を実現するための手段の一つとして、また、GIGAスクール構想の実現に向けて、より一層研修の需要が高まってくると考える。教科等の研修においても、ICT活用等の内容を入れるなどして、研修内容の充実を図っていく。
- 3 教育研究発表会の活用割合が、小学校・中学校・高等学校においてH30年度比で+4～5ポイントとなった。教育研究発表会の内容が、岩手の教育課題に則したものとなり学校や個人が抱える課題解決等の手掛かりになるよう、引き続き努めていく。

<取り上げてほしい教科・科目について>

- 1 小学校・中学校・高等学校において、『国語』（小31.4%・中28.3%・高50.0%）、『算数・数学』（小54.1%・中35.5%・高38.2%）、『理科』（小14.2%・中35.5%・高30.3%）、『外国語』（小50.2%・中29.6%・高43.4%）の要望が高かった。主要教科として、資質・能力を育む指導と評価の在り方、主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫と改善についての要望が挙げられている。
『特別の教科道徳』について、小学校(41.9%)・中学校(67.8%)特別支援学校(47.1%)の要望があった。特別の教科道徳及び道徳教育の進め方についての要望が挙げられている。
学習指導要領の改訂に関する関心の高さが伺える。今後も新学習指導要領の趣旨の周知と理解を図っていけるよう研修を行っていく。
- 2 小学校において、『小学校外国語』（50.2%）の要望があった。小学校外国語科及び外国語活動の趣旨の理解や指導の在り方、パフォーマンス評価などの研修内容の要望が挙げられている。また、『外国語』について、中学校(29.6%)、高等学校(43.4%)においても要望があった。新学習指導要領に対応した指導や評価に関する研修内容の要望が挙げられている。
今後も基本研修及び希望研修を通して、新学習指導要領の趣旨について理論と実践の両面から具体的に学ぶ研修や、所員研究を生かした実践的な研修を行っていく。

- 3 特別支援学校において、『音楽』（23.5%）、『図工・美術』（23.5%）などの実技教科の要望があった。特別支援教育として個々の実態に合わせた実技指導の在り方に困難さを感じていると思われる。これまで同様、基本研修や希望研指導を通して、指導の在り方やその工夫について実践的に学べる研修を行っていく。

<取り上げてほしい領域等について>

- 1 取り上げてほしい領域等について、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に共通して要望があったのは「特別支援教育」（全体 32.7%・小 30.7%・中 37.5%・高 28.9%・特支 41.2%）であった。前回調査においても全体で 33.2%であった。特に個別支援の在り方、ユニバーサルデザインに基づく教科指導の在り方への要望が挙げられている。今後も研修内容の充実、周知と理解を図っていく。
- 2 小学校と中学校において変化が大きかった領域は、『キャリア教育』〔小（前回 3.8%→今回 14.2%）・中（前回 10.2%→今回 21.7%）〕である。この背景には、キャリア・パスポートの導入の影響があると考えられる。小中高の連続性を意識したキャリア・パスポートの活用や、キャリア教育の視点に立った教科学習の進め方に関心が寄せられている。年間指導計画や体験的な学習プログラムの企画といった計画に関わる事項への関心も認められる。今後も内容の周知と理解の定着を図っていく。
- 3 小学校においては、『プログラミング教育』への要望（前回 30.4%→今回 47.5%）もより一層高まっている。特に、指導と評価の具体的な在り方についての研修の要望が挙げられている。文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」を踏まえ、本センターの「プログラパック」の実践も生かして、今後も内容の周知と理解の定着を図っていく。
- 4 高等学校において変化が大きかった領域は『総合的な学習（探究）の時間』（前回 23.2%→今回 42.1%）である。「総合的な探究の時間」と名称が改められ、探究的な取組が本格的に実施されつつある中で、計画の立案、効果的な指導方法、地域連携の進め方などへの要望が高まっている。今後も継続して実践事例等の情報を提供し、理解の促進を図っていく。
- 5 特別支援学校においては、『自立活動』（52.9%）、『特別支援教育』（41.2%）への要望があった。前回調査と比較すると、『自立活動』は前回と同様に、障がい種毎の進め方への関心が認められる。『特別支援教育』では、要望の内容に変化（前回：新学習指導要領に基づいた授業づくり → 今回：個別の支援、指導）が見られた。今後も継続して障がい種に応じた研修を実施し、現場の要望に応えていく。

「支援」について

- 1 『教育相談』の利用について、いずれの校種においても、「機会があれば利用したい」〔小（66.0%）・中（65.1%）・高（72.4%）・特（70.6%）〕が多かった。特別な支援を必要とする児童生徒への対応の必要性が高まり、専門機関を利用したいという要望が挙げられている。今後も相談ニーズに対応できるような支援体制を継続していく。

- 2 『どうぶ相談』の利用について、「機会があれば利用したい」〔小（56.1%）・中（58.6%）・高（75.0%）・特（64.7%）〕である。今後も相談ニーズに対応できる支援体制を継続していく。

「研究」について

＜令和元年度の研究成果物の活用について＞

- 1 教育活動の充実に役立つ研究として、小・中・高等学校共通して、『早期からの継続した教育支援体制の整備に関する研究—小・中・高をつなぐ「引継ぎシート」の開発・試行を通して—』が挙げられた（小 19.8%、中 27.6%、高 35.5%）。
「障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について（通知）」（文部科学省、2013）において、個別の教育支援計画作成の重要性が明示されているが、いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）策定に係る調査結果（岩手県教育委員会、2018）によると、進学時の引継ぎや情報共有ができていくとする肯定的評価の割合が、小学校から中学校、高等学校へと進むに従って低下しているという現状があり、今後活用を普及していきたい。
- 2 小学校においては、『コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究—「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の例とWE-CANシートの活用を通して—（2年研究2年次）』が挙げられた（29.0%）。
本研究は、育成すべき資質・能力の正確な捉えの切り口として、「『CAN-DOリスト』形式の学習到達目標の例」を作成したもので、小学校外国語科の授業づくりに役立てるため、今後も普及を図りたい。
- 3 高等学校においては、『高等学校理科における研究の過程を主体的に進める授業の在り方に関する研究—科学的に課題を解決する「探究マップ」の開発とその活用を通して—』が挙げられた（18.4%）。
高等学校においては、2022年度から新学習指導要領が年次進行で実施される。各教科における資質・能力の育成に資することを目的とした研究成果を普及することにより、高等学校の授業改善につなげていきたい。
- 4 特別支援学校においては、『知的障がい教育における教育課程の適切な実施に関する研究（特別支援学校小学部）—「各教科等を合わせた指導」での目標、内容、方法、学習評価の一体化を通して—』が挙げられた（17.6%）。
本研究は、知的障がい特別支援学校小学部の「各教科等を合わせた指導」において、知的障がい教育における教育課程の適切な実施を目指したものであり、3つの手立てをまとめた「授業づくりガイドブック」を作成した。

＜平成30年度の研究成果物の活用について＞

- 1 教育活動の充実に役立つ研究として、小学校においては、『論理的思考力を育むプログラミングの体験の在り方に関する研究—小学校における総合的な学習の時間の指導を通して—』が挙げられた（31.4%）。

新小学校学習指導要領において、新たにプログラミング教育の必修化が盛り込まれており、プログラミングの体験を導入した学習指導案を作成し、実証的な授業実践の一例を示した本研究は、小学校の総合的な学習の時間の学習指導において、有効に活用できると考える。

- 2 全校種において、『特別支援教育コーディネーターの業務の推進に関する研究—多様なニーズをもつ一人一人の子供の育ちを支える関係機関連携を目指して—』が挙げられた（小 16.2%、中 19.7%、高 22.4%、特別支援 5.9%）。

本研究では、特別支援教育コーディネーター業務の中でも関係機関との連携に焦点を当て、相談実践を検証し、連携を組織的、継続的に実施するための取組やその進め方を「関係機関連携ハンドブック」としてまとめたもので、各校種におけるインクルーシブ教育システム構築に向けた支援体制づくりに有効であると考えます。

- 3 小・中学校においては、『コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指す小学校外国語科指導の在り方に関する研究—WE—CANシートの開発・活用を通して—（2年研究1年次）』が挙げられた（小 22.8%、中 6.6%）。

本研究は、小学校教員の外国語科指導に対する不安を払拭することが喫緊の課題であると捉えており、小学校教員が小学校外国語科における基本的な指導について理解を深めることに有効で各学校の高いニーズに応えるものであり、さらなる普及を図りたい。

- 4 高等学校においては、『高等学校における特別支援教育推進に関する研究—校内研修プログラムの作成及び各校のニーズに応じた活用を通して—』及び『高等学校における通級による指導の充実に関する研究—キャリア発達を支援する「自立活動」を通して—』が挙げられた（22.4%、22.1%）。

中央審議会答申（2018）において、インクルーシブ教育システムの構築を目指し、一人一人の子供の状況に応じた、組織的・継続的な支援の必要性が述べられており、そのための教職員の意識や専門性の向上、組織的な支援体制づくりが早急に求められている。また、2018年度から高等学校における通級による指導が開始されていることから、高等学校において、本研究は有意義なものであったと考える。

<平成 29 年度の研究成果物の活用について>

- 1 小・中・高等学校のいずれの校種においてニーズが高かったものとして、『資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業の在り方に関する研究（総論）』がある（小 23.4%、中 25.0%、高 18.4%）。

今年度、小学校における新学習指導要領が全面実施となり、以降、中学校は令和3年度から全面実施、高等学校は令和4年度入学生から年次進行で実施となる。今後も新学習指導要領に基づいた研修を継続して実施し、周知と理解を図っていく。

- 2 小・中学校においてニーズが高かったものとして、『道徳科における評価の在り方に関する研究』がある（小 44.6%、中 40.1%）。

小・中学校ともに、「特別の教科道徳」が位置付けられ、指導の充実とともに、児童を認め励ます評価を進めることとなった。センターでは、小・中・高初任研において「道徳教育の意義と進め方」、小・中3年目研において「『特別の教科 道徳』に求め

られる学習指導と評価」をそれぞれ実施し、研究成果を活用している。今後も研修を通して、周知と理解を図っていく。

- 3 高等学校においてニーズが高かったものとして、『「通級による指導の導入」に関する研究』がある（高 18.4%）。

県立高等学校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の在籍数は増加傾向にあること、支援を必要とする生徒の多様なニーズに応えることなどから、本研究への注目が高まったことが考えられる。今後も研修内容の充実とともに周知と理解を図っていく。

- 4 特別支援学校においてニーズが高かったものとして、『「特別支援学校におけるセンター的機能の充実」がある（特 82.4%）。

本県では、センター的機能の役割を担う校務分掌が「支援センター部」等の名称を用いて組織化されており、支援センター部以外の教職員の専門性を活用できる校内体制の確立が求められていることから、本研究への注目が高まったことが考えられる。今後も研修内容の充実とともに周知と理解を図っていく。

＜平成 28 年度以前の研究成果物の活用について＞

回答数が突出して多いものはなかったものの、上位 3 件は、前回調査と同様の「指導案データベース（6）」、「岩手県教育研究発表会資料（5）」、「G アップシート（5）」であった。また、「複式学級の授業改善」に関する研究成果物は、前回調査よりも回答数が増加した（前回 3、今回 5）。多くの研究成果物が挙げられており、幅広く活用されていることが分かる。

＜研究成果物の入手方法について＞

研究成果物の情報入手方法については、小学校以外は「センターの Web ページ」の割合が最も多く、中学校で 35.5%、高等学校で 34.2%、特別支援学校で 47.1% となっており、全体でも 33.2% と 3 分の 1 を占めている。

小学校においては、「岩手県教育研究発表会」の割合が最も多く 33.0% であり、「センター Web ページ」の活用が 31.0% とどちらも 3 割を超えている。小学校、中学校では両方の入手方法で 60% を超えており、特別支援学校では、70.6% となっている。

高等学校では、「研修資料」（23.7%）や「教育研究岩手」（11.8%）、「研究紹介リーフレット」（6.6%）が他の校種よりも多くなっている。

＜センターの研究として取り上げてほしいもの＞

- 1 前回、前々回にはなかった新たな動きとして、プログラミング教育や ICT 活用、オンライン授業が見られる。コロナ禍で教育の ICT 化という話題が急浮上してきた動向を反映しているものと考えられる。今後、さらにニーズの把握に努めていきたい。
- 2 一方、この項目に関して回答した学校は、いずれの校種においても約半数であり、II 4（1）の研究の活用状況をより多くの学校に広めるためにもきめ細かなニーズの把握が必要である。そのため今後は、教育の今日的な課題をリストアップした選択式の回答方法も検討したい。

2 幼稚園等についての分析・考察

「研修」について

<研修内容の活用について>

- 1 研修内容の活用について最も多いのは、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修の基本研修に関する研修内容で（30.2%）、次いで岩手県幼稚園等教育課程説明会、希望研修に関する研修講座、教育研究発表会の順となった。今後も現場のニーズを踏まえた基本研修の充実に取り組んでいく必要がある。
- 2 当センターでの研修内容を活用していない理由として最も多いのは、「職員が少ない、参加する機会がない」（13.2%）である。前回調査及び前々回調査において上位4項目に挙がっていなかった「個人研修にとどまっている／園全体の活用になっていない」という回答が新たに挙がってきた。一人でも多くの方に研修の機会を提供できるよう工夫していく必要がある。

<取り上げてほしい研修内容について>

- 1 前回の調査で2番目に要望の多かった「指導と評価に生かす記録」（46.2%）が、今回の調査では1番多い結果となった。回答でも、記録の取り方、生かし方に関する内容への要望が挙げられている。初任者研修や希望研修でも扱っている内容であるが、記録の活用の仕方に関する研修内容について、さらに周知していきたい。
次いで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（38.7%）、「幼児期の特別支援教育」（34.9%）が挙げられている。改訂に伴って示された10の姿の周知と、それに向けた具体的な指導内容の理解を進めていく必要がある。研修を通して各年齢の時期における指導の在り方や幼児の具体的な姿をイメージできるようにしていきたい。また、特別な支援を要する幼児の見取りや支援についての研修の充実も図ってきたい。
- 2 幼小の円滑な接続においては、職員間の相互理解が一層重要である。「園内研修」（29.2%）、「小学校との接続」（28.3%）は、希望研修でも取り上げている内容であるが、効果的な園内研修や幼小の接続に関する研修について、更なる研修内容の充実と周知を図っていく。

「支援」について

- 1 『教育相談』の利用について、いずれの校種においてニーズが高かったものとして、「機会があれば利用したい」（63.2%）である。園内において特別な支援を必要とする幼児への対応の必要性が高まり、専門機関を利用したいという要望が挙げられている。今後も相談ニーズに対応できるような支援体制を継続していく。
- 2 『どようび相談』の利用について、「機会があれば利用したい」（46.2%）。今後も相談ニーズに対応できるような支援体制を継続していく。

「研究」について

＜研究成果物の活用について＞

- 1 「幼小接続」にかかわる研究成果物の活用率が上がっている。（H30年度研究26.4%、R元年度研究25.5%）幼稚園教育要領等の改定により、必要感の表れと捉えられる。
- 2 「特になし」の回答が49.1%で半数近い。しかし、H30年度の「特になし」の割合が60.1%であったので、活用率は10ポイント強上昇している。今後、次項の「研修成果物の入手方法」の傾向を勘案し、一層の研究成果の普及を図っていく。

＜研究成果物の入手方法について＞

- 1 「岩手県教育研究発表会」35.2%、次いで「研修資料」27.8%となっている。どちらも教育センターを会場とした集合研修的な場で情報を入手していることがわかる。センター主催研修以外の集合研修の場も活用し、普及を図っていく。
- 2 センターWebページからの入手は13.0%であった。H28年度3.6%、H30年度10.2%と微増の経過をたどっている。これまでの紙媒体での直接的な情報収集中心の傾向から、情報メディアを介した間接的な情報収集も行える園が増え、情報収集は以前よりしやすくなっていると考えられる。紙媒体での普及と共に、センターWebページの周知を図り、日常的にアクセス出来る状況を作る。

＜センターの研究として取り上げてほしいもの＞

- 1 「幼児期の特別支援教育」に関する研究への要望が最も多かった（7.5%：回答数8）。当センターとしても、「支援が必要な幼児の育ち合いを促す保育ガイド」の改訂を進める予定である。
- 2 「園運営・教育課程」にかかわる研究への要望（5.7%：回答数6）が挙げられているが、その背景として、幼稚園・保育所等から認定こども園への移行に伴い、保育に関する考え方についての職員間の共有に苦慮している状況が窺える。具体的な好事例を紹介する機会を工夫していきたい。
- 3 「幼小接続」（4.7%：回答数5）については、前回から微増している。今後さらに高まっていくことも予想される。2年間の研究の実績を基に、各教育事務所等の研修の際に活用する機会を増やしていきたい。

3 研修・支援・研究業務への意見・要望に対する当センターからの回答

小・中・高・特別支援学校からの「意見・要望」について

各校からいただいた主な意見・要望と、当センターからの回答は以下のとおりです。

<講座等の研修全般に関すること>

ア 新型コロナウイルス感染症に関する意見・要望

- ・研修講座がコロナ対応で中止になりとても残念でした。資料のみでも参考にしていきたいと思います。
- ・中止・延期された講座について、この状況が収束したら行ってほしい。
- ・新型コロナウイルスによる研修講座の補填及び情報発信を可能であれば、お願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策により、研修講座が中止の対応となっているが、研修講座テキスト等を公開していただけると、現場において教員の研修の機会を得ることができると思います。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・初任研のセンター研修において、コロナ対応で資料を読み、レポート作成という代替措置でしたが、他の措置は講じられないものでしょうか。研修に深まりがないように思われました。

<当センターからの回答>

新型コロナウイルス感染症に関する意見・要望については、研修講座に対する期待の大きさを届けていただいたものと受けとめております。一方で、卒業式、入学式など年度末、年度初めの学校行事が中止または規模縮小を余儀なくされる中、教育課程の見直しに注力させて欲しいという声も届いておりました。当時は新型コロナウイルス感染に関する知見も限られており、緊急事態宣言下での研修講座の実施については、賛否両論ありました。研修講座の中止は当センターにとっても苦渋の判断でした。実施が義務付けられており中止することが出来ない基本研修については、資料提供とレポート提出による代替措置で実施いたしました。

現在は、感染症に関する知見も増え感染予防対策を取りながら研修講座を実施できる状況になりました。今後は、感染の状況に応じて、集合形式やオンライン形式など実施の仕方や実施できない場合でも資料の提供のあり方などについて、学校現場の皆様の声に応えられるよう工夫しながら研修講座を運営して参ります。

イ 研修講座の実施時期に関する意見・要望

- ・希望研修の日にちが学期末に設定されていることが多いので、できればそこを外してほしい。
- ・希望研修の日にち設定を、できれば学期末を避けてほしい。
- ・研修「WISC-Ⅳの検査結果を活かした支援」は希望する職員が多いので、年に2回開催してほしい。

<当センターからの回答>

希望研修については、より多くの方に受講してもらえよう、今後も適切な実施時期について検討を重ねて参ります。

ウ 情報提供のあり方、研修の内容に関する意見・要望

- ・とても意義のある研修が行われていると感じていますが、こちらが実際に目にしたりよさを実感したりできる機会が少なく、残念に思います。本校は遠方のため、なかなか研修に行くことも難しい状況です。もう少し広く周知していただけると活用しやすいかと感じます。

<当センターからの回答>

研修講座の受講については、県土の広さや校務の関係等により思うように受講できない状況も確かにあります。そのため、要請研修や移動センター、随時研修にも対応しております。何かあればとりあえず管理職の方を通じてご相談いただければ状況に応じた対応を検討いたします。

また、令和2年度から著作権法が改正になり、学校等の設置者が補償金を支払うことで著作物の公衆送信が可能になりますので、今後は、研修講座の資料や動画の公開も検討していくこととしております。

- ・本校では貴センターでの研修参加を積極的に呼びかけています。年間の研修講座案内も必要ですが、職員に周知するために研修講座毎の案内もあれば良いと思います。

<当センターからの回答>

研修講座の案内については、年度初めに年間の研修講座の日程を公開し、各研修講座については、2か月から1か月前に実施要項を公開し、申込みを受け付けることとしております。いただいたご意見に関して、各講座の要項を公表する時期の在り方については今後検討して参ります。

- ・学習指導要領改訂に伴い、これまではなかった新たな指導内容等について、早期により多くの情報等を提供していただくとありがたいです。
- ・タイムリーな研修と近年の研究成果が少ないように思っています。よって、希望研修やホームページを活用する機会も減ってしまう傾向にあるのではと思っています。
- ・昨年度の2月下旬に、実機（スマホ）を用いた情報モラル授業を本校で行っていただきました。その授業を参観することを通して指導法についても学ばせていただきました。情報モラル教育について更に研修を深めていきたいと思っております。
- ・昨年度、初任研・2年目研・3年目研で、講座の重複がありました。教職員の資質能力向上の視点からも系統的な内容の組立てをお願いしたい。

<当センターからの回答>

研修講座の内容については、受講後のアンケートや今回の2年毎の学校を対象とした全県調査、県教委事務局関係室・課との連携会議等の機会を通じてニーズの把握に努めPDCAを図っております。研究についても同様にニーズの把握に努めております。

今後もニーズの的確な把握に努め、関係機関と連携して学校、児童生徒への支援にあたることで、「現場に役立つセンター」としての役割を果たして参りますので、忌憚のない様々なご意見をお待ちしております。

＜教材開発に関すること＞

- ・教育関係資料をネット上で探すとき、キーワードで探索すると、他県の教育センターの資料の方が豊富に見つかります。岩手県の資料も多くの方に見ていただくために、目に触れる機会を増やす工夫ができればよいと思っています。
- ・新学習指導要領が本格実施となり、「外国語」「プログラミング教育」「特別の教科 道徳」の授業実践や授業のアイデアなどを、Webページにアクセスしてすぐに活用できるように、情報提供をしていただけるとありがたい。
- ・ホームページの学習指導案データベースを授業づくりに活用している。最新のデータを追加していただきたい。
- ・指導案データベースのさらなる充実をお願いします。

＜当センターからの回答＞

当センターのホームページについては、利便性の向上とタイムリーな内容の更新が課題となっております。今後、他県のホームページ等も参考にしながらより良いホームページの在り方について検討して参ります。

＜研究に関すること＞

- ・センターにおいて各先生方が、何の目的で研究しているのか、どのようなテーマで研究をなさっているのか。情報発信してほしい。
- ・研究、研究成果物などすばらしい内容であるが、うまく活用されていないように感じる。情報発信の工夫が必要ではないか。
- ・ネット上で他県の資料やピンポイントにニーズに応える研究成果を検索することができ、センターの研究への依存度が低くなっている状況があると思いますが、岩手県の研究の先駆としてこれからも引き続き参考にさせて頂きたいと考えます。
- ・今後とも現場レベルで即活用可能な研究を進めていただけるようお願いいたします。
- ・岩手県教育研究発表会の更なる充実を期待しております。

＜当センターからの回答＞

研究成果については、岩手県教育研究発表会で発表しホームページにも掲載しております。また、研修講座の内容にも反映させるなど、成果の普及にも取り組んでおります。今後も、全国的な教育の動向や学校現場のニーズの的確な把握に努め、皆様の期待に応えられるよう研究内容の充実にも努めて参ります。

＜要請研修に関すること＞

・教育相談で助けられた事案がありました。（すぐに医療につなぐことが困難な場合の事案など）

＜当センターからの回答＞

学校現場における教育上の諸課題は、多様化、複雑化してきていると言われております。今後も、関係機関と連携しながら、児童生徒、保護者、教員等、学校関係者の皆様の力になれるよう教育相談業務の充実に努めて参ります。

＜この調査に関すること＞

- ・この調査は、2月か3月に行っていただくと、転任する前に勤務していた学校のことので考えることができるので良いと思います。
- ・このような調査は年度内に実施したほうが、研修の実態がより明らかになり、研修や講座の内容に反映されると思います。また、【研修成果の活用】について、昨年度より前のことを回答するのは難しいと思います。

＜当センターからの回答＞

本調査につきましては、お忙しい中での皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

実施時期や内容等、本調査の在り方につきましては、今回いただきましたご意見も含めて今後検討して参ります。

幼稚園等からの「意見・要望」について

各園からいただいた主な意見・要望と、当センターからの回答は以下のとおりです。

- ・ 幼児教育センター（仮）の設立に期待しています。
- ・ 今後、研究成果物を参考にさせて頂き、保育に役立てていきたい。
- ・ 刊行物や報告書等、分類整理しながら、資質向上に活用したいと思います。
- ・ 本調査によって、センターで取り組んでいる研究を拝見しないままに日々過ごしていたのだと感じた。開かれている研修講座はもちろんだが、センターの研究を積極的に活用できるようにしていきたい。
- ・ 園内中核リーダー研修が運動会前、発表会前になることが多く、なかなか参加させることができない。とても良い内容なので残念に思うことがある。
- ・ 研修会には参加したい、させたいという気持ちはありますが、平日はなかなか時間の確保が難しく（代替え教諭の確保等）今後検討しながら、参加出来るようにしていきたいと思っています。
- ・ 今年度は新型コロナウイルスの影響で研修参加が難しい状況になっているので、次年度の研修では対象者に幅を持たせて欲しい。

<当センターからの回答>

平成30年に「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂されましたが、改訂に当たっては、どの幼児教育施設においても3つの資質・能力を育てていくという改訂の方向性と内容の整合性の確保が図られるとともに、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図る観点から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が位置付けられました。このような動きに呼応して、本県においても幼児教育センターの設置を目指しています。今後ますます、幼児期の教育や保育に関する研修や研究のニーズが高まっていくことが考えられますので、当センターとしても、今後設置される予定の幼児教育センターと連携して、より多くの方の役に立つ研修、支援、研究の充実に努めて参ります。

また、幼児教育センターが設置された場合には、幼児教育アドバイザーの活用やより多くの方の期待に応える研修の在り方についても検討が必要であると考えております。

令和2年度

岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



岩手県立総合教育センター 2021.1